

平成 30 年度 次世代の教育情報化推進事業

情報活用能力の育成等に関する実践的調査研究 情報教育の体系的な推進

自ら学ぶ意味を創造できる児童・生徒の育成

～情報活用能力育成の視点から～



北海道教育大学 IE-School 研究成果報告書

推進校：北海道教育大学附属釧路中学校

Kushiro Junior High School Attached to Hokkaido University of Education

本報告書は、北海道教育大学が文部科学省より委託を受けた「平成30年度次世代の教育情報化推進事業」について、北海道教育大学附属釧路中学校が推進校として取り組んだ研究成果をまとめたものです。

目 次

□ 自ら学ぶ意味を創造できる生徒の育成	-----	2
□ 研究成果物		
(1) 横断的カリキュラム見取り表	-----	18～33
(2) ①小学校体系表	-----	34～37
②中学校体系表	-----	38～42
(3) 全体計画	-----	43
(4) アンケート	-----	44～47

自ら学ぶ意味を創造できる生徒の育成

～情報活用能力育成の視点から～

研究の概要

本事業では、平成 29 年 3 月に示された新学習指導要領において、「情報活用能力」を各学校段階・各教科等の学習活動を通じて体系的に育成する重要性が高まっていることを受けて、北海道教育大学附属釧路中学校における教科等横断的な情報活用能力の育成に係るカリキュラム・マネジメントの在り方の開発のための実践的な研究を実施するものである。

具体的には、情報活用能力の育成のためのカリキュラム・マネジメントの方法等の整理を実施する。本校で作成している横断的なカリキュラム見取り表をベースとして、情報活用能力の育成について教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメントを行い、カリキュラム見取り表を評価・改善、作成していく。また、情報教育の目標設定や校内における PDCA サイクルの確立も目指していく。さらに、本校の研究をベースとしながら情報教育（情報活用能力の育成）に係る授業設計（単元指導計画、指導案等）を実践するとともに、アンケートを中心とした実践の検証を進めていく。加えて、情報教育実践校等への視察研修やセミナーへの参加を行うことで最新の動向や情報をキャッチしながら、今年 1 年の実践をまとめていく。まとめたものは、地域のセンター校としての役割からも、公開研究会等を活用しながら、地域の学校へ発信し、普及に努めることとする。

こうしたカリキュラム・マネジメントの評価・改善、授業実践、各種検証、実践校等の視察研修の成果に基づき 1 年間の研究成果とする。

1. はじめに

現在、技術革新が凄まじい勢いで進展している。人工知能（AI）や Internet of Things（IoT）、ビッグデータなどの先端技術が高度化する中、生活や社会が劇的に変化し、便利で快適な超スマート社会（Society5.0）の到来が予想されている。平成 30 年 6 月に行われた Society5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会の中では、この変化を「人類がこれまで経験したことのない急激な変化」と位置付け、未来への大きな期待や希望を感じる一方で「漠然とした不安の声」もあがっていることを示した。今後、これからの社会を生きる児童・生徒には夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力が求められるとともに、私たちにとって Society5.0 の社会を生き抜く力を児童・生徒に育てることが急務である。

平成 30 年 6 月 15 日に閣議決定された第 3 期教育振興基本計画では、子供たちを取り巻く状況として、「情報通信技術（ICT）を利用する時間は増加傾向にある一方、授業においてコンピュータを使っている生徒の割合は OECD 加盟国で最も低い水準にある」ことが課題として示された。また、平成 29 年度に示された新学習指導要領では、情報活用能力（プログラミング的思考や ICT を活用する能力を含む）を、言語能力や問題発見・解決能力と同様に、学習の基盤となる資質・能力と位置づけ、教科等横断的な視点から教育課程の

編成を図り、各学校のカリキュラム・マネジメントの実現を通じて育成することが明示された。これらのことから、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の中で、情報活用能力の育成の視点から、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用した学習活動の充実を図ることは、本校のみならず全国的に重要なことだと捉えることができる。

本校は平成 26 年より「自ら学ぶ意味を創造できる生徒の育成」を目指してきた研究を推進してきている。自ら学ぶ意味を創造できる姿、すなわち様々な「学び」の中で、生徒が他者との対話を通して自律的に学びを進めていく姿の実現が、新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」につながると考えてきた。そして、今年度は生徒の自律性の高まりに関連する資質・能力を獲得していく過程をカリキュラム・マネジメントすることを研究主題に据えることで授業改善を図ってきた。このことは、情報活用能力の育成の視点とも重なるところもあることから、本事業では本校 5 ヶ年計画である「自ら学ぶ意味を創造できる生徒の育成」の延長線上にあると捉え、情報活用能力の育成の視点からも教育課程を整理することとした。また、本事業において IE-School の過去の事業成果を十分に活用した研究の推進を委託されていることから、本校は委託初年度ではあるが、昨年度まで事業に参加していた北海道教育大学附属函館中学校の実践例を中心に、その成果を活用すると共に、他の学校の実践例を大いに参考にしながら研究を推進することとした。

2. 本校の ICT 環境状況と実施体制

(1) ICT の環境状況

本校では、平成 24 年よりこれからの教育活動を支えるツールの一つとしての ICT に注目し、iPad を中心としたタブレット PC を導入してきた。翌年、平成 25 年度より学校経営の方針の中でも、教科を窓口とした ICT 教育の推進を掲げ、初年度 45 台だった iPad も、現在では総数 80 台以上が常時使用できる状態にある (図 1)。このことは、全校生徒が 300 人程度の本校が、現状において 2 学級が同時に教育活動を推進できる環境であることを示し、これは、文部科学省が「2020 年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」で提示した、「全国の学校(普通教室)における ICT 環境整備のステップ (図 2)」において、早急に整備が必要な Stage3 について達成できている状況と言える。

- 無線 LAN : 校内全域
- 情報処理室 : 可動式 PC40 台
- 音楽室・美術室・技術室・情報処理室・体育館にプロジェクター完備
- 各教室に TV 設置
- iPad81 台

図 1. 平成 30 年 12 月現在の本校の ICT 環境

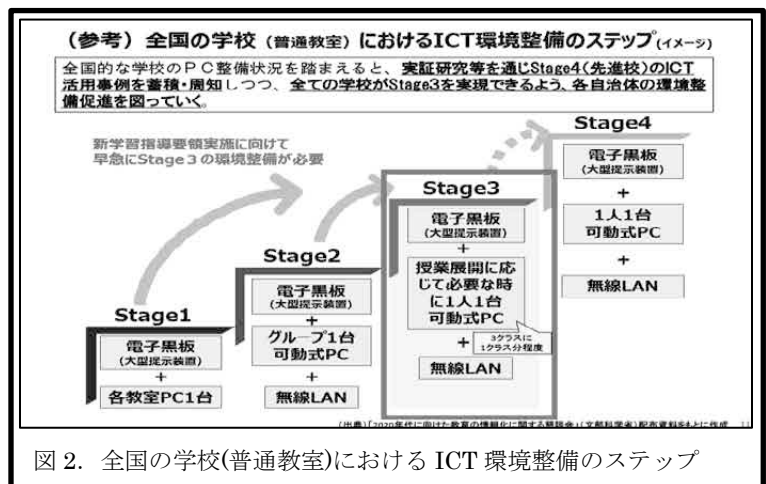


図 2. 全国の学校(普通教室)における ICT 環境整備のステップ

しかし、本校としては、より一層 ICT の活用推進を目指すにあたり、全校生徒一人一台にはまだ及んでいないところが課題であるとともに、iPad 自体が消耗品で、3~5 年で更新が必要となることから、今後新しいものへと更新しなければならないことがすでに予想されており、継続的な環境整備の事務的な面からも課題がある。

(2) 実施体制

本校では学校の校務を円滑に進めるため、また、本校ならではの教育課程を編成するために、従来から主幹教諭を要した運営委員会および教育課程編成委員会が組織されている。また、研究推進にあたっては研究主任を中核にしたチームが組織化されている。

今回本事業におけるカリキュラム・マネジメントの研究を推進する組織を立てるにあたり、本校に従来備わっている組織を活用する形で体制を整えることで(図3)、学校体制における過度な負担感を削減し、円滑に研究

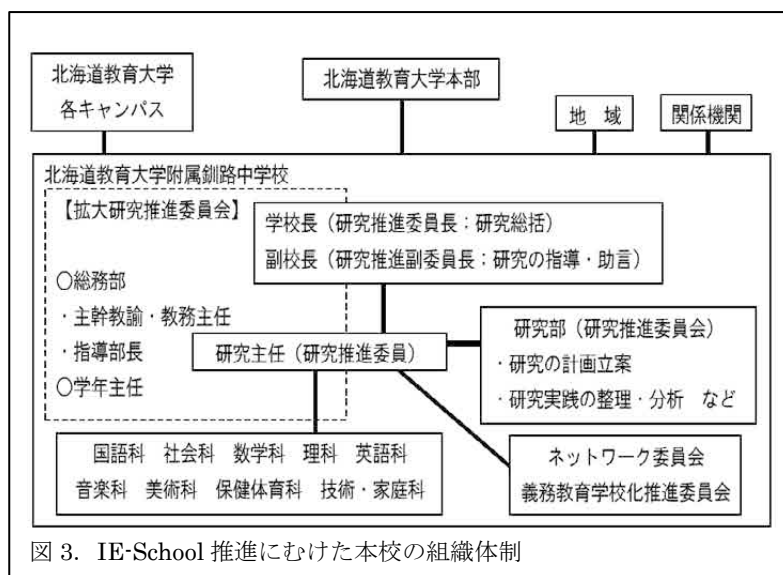


図3. IE-School 推進にむけた本校の組織体制

を推進することを目指した。また、本校の特色でもある北海道教育大学の各キャンパスを組織内に明確に位置づけることで、昨年度まで推進校であった北海道教育大学附属函館中学校とのつながりも見えるようにした。

① 推進委員会

本事業にかかわる推進委員会は、本校における研究部を位置づけた。本年度の研究部は講師も含めて11名体制であり、美術科、技術・家庭科を除く全ての教科担当が揃っている体制である。通常本校の研究部は、図4 左にある本校の研究ベースにおける推進を複数名で担当することで組成されている。本事業では、新たに図4 右のように担務を位置づけて組織立ててスタートした。7月にこの事業に参画することがわかった段階で明確に組織の中に位置づけたことにより、部員の中での役割分担が明確になり、責任を持った取組を推進することができた。

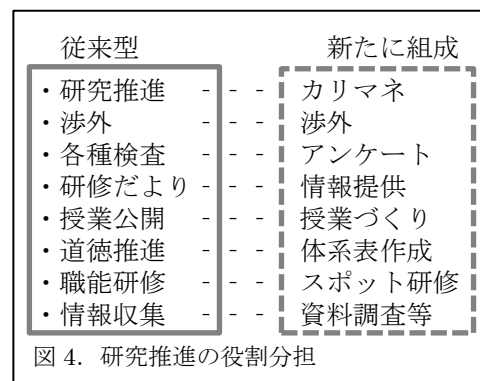


図4. 研究推進の役割分担

② 拡大推進委員会

本事業を推進するにあたって検討したことの一つに、どのように学校全体のものにするかという点がある。業務が推進委員会、あるいはごく一部だけのものになってしまうことは学校全体の財産につながらず、大変残念なことと考えた。また、推進委員会で検討した計画や提案が学校の業務全体においてスムーズに進行できるようマネジメントするためには、管理職を含め主任クラスの意見を集約する必要がある。

以上のことから拡大推進委員会の構成委員は本校における運営委員会(主幹教諭、教務主任、生徒指導主事、研究主任、学年主任で組成される委員会)が兼ねることが適切であると判断し、運営委員会をそのまま拡大推進委員会として設置することとした。このことによって、推進委員会での検討事項が運営委員会でも検討、周知を図ることができた。また、運営委員会が拡大推進委員会を兼ねることによって、新たに会議を設ける必要が無く、業務の効率化も同時に図ることができた。

③ 推進委員会および拡大推進委員会の実施と内容

推進委員会及び拡大推進委員会の実施計画と内容は次掲図5のとおりである。本校における研究部と運営

委員会を基に組織された委員会なので、両委員会とも毎月定期的に実施してきた。推進委員会では各担務において全体への周知のタイミングや資料作成締切のアナウンスの検討、本事業推進に関わる情報収集の整理や発信の方向性を検討した。また、体系表や横断的カリキュラム見取り表の作成に関わっては、どのような示し方が適切であるかなど実際に作成した資料を持ち寄るなどして検討を重ねた。

拡大推進委員会では主に提案内容や今後の見通しの確認に重点を置いてきた。管理職からも進捗状況の確認や、全体への周知の状況を報告するなどのタイムマネジメントを図るとともに、体系表や横断的カリキュラム見取り表のよりよい示し方の助言を受け、推進委員会にフィードバックしてきた。運営委員会を通じた提案内容は同月に実施される職員会議にて提案されるため、推進委員会→拡大推進委員会→職員会議という一連の流れの中で職員全体に周知し、事業を推進することができた。

このような体制を組むことで、職員の過度な業務の負担を増やすこと無く、効率的に業務を推進すると共に、多くの目で評価・改善を繰り返し行い、学校全体で IE-School の事業に参画している意識の醸成をはかり、本事業を推進することができたと考える。

3. 研究内容

(1) 本校で目指す資質・能力

本校は昭和 44 年に開校以来、授業で人（人間性）を育てることを目指してきている。図 6 は、本校の学校教育目標である。開校当時より本校が目指すべく生徒に培う資質・能力としている。

本校における情報教育の目標、目指すべき資質・能力は、この学校教育目標の理念と右図 7 の情報教育の目標を受け、図 8 のように本校における情報教育で育てたい資質や能力及び態度を設定し、P.43 に示す、情報教育の全体計画を作成に至った。

全体計画作成にあたっては、学校教育目標とのつながりを強く意識するとともに、各学年の指導の重点をどのように捉えるかについて検討を重ねてきた。また、今回の事業参入

日付	委員会等	内容
6月22日	第1回推進	IE-School 参画の周知
7月2日	第1回拡大	IE-School 参画の周知
7月4日	職員会議 スポット研修1	全体周知 ・情報活用能力について ・横断的カリキュラム見取り表 ・体系表 ・アンケート実施 ・授業案作成
7月23日 7月31日	第2回推進 第2回拡大	・作成物の進捗状況の把握 ・次回スポット研修の内容の確認 ・アンケートの分析状況の確認
8月1日	職員会議 スポット研修2	・授業案の作成例と締切 ・各教科における情報教育に関わる指導の重点の確認 ・横断的カリキュラム表の作成 ・体系表の作成 ・それぞれの締切等の確認
8月16日	職員会議 スポット研修3	・アンケート集計結果の報告 ・横断的カリキュラム見取り表の進捗状況
8月23日 8月29日	第3回推進 第3回拡大	・授業案の修正 ・横断的カリキュラム見取り表整理
9月12日	職員会議 スポット研修4	・体系表第2次整理 ・伝える力セミナー 運流報告
9月27日 10月1日	第4回推進 第4回拡大	・横断的カリキュラム見取り表整理 ・体系表第3次整理
10月3日	職員会議 スポット研修5	・視察授業について
10月10日 10月25日 10月29日	第5回推進 第6回推進 第6回拡大	・視察授業についての報告 ・体系表の修正・改善について
11月7日	職員会議 スポット研修6	
11月28日 11月29日	第7回推進 第6回拡大	・横断的カリキュラム見取り表修正 ・体系表第4次整理
12月10日	職員会議 スポット研修7	・アンケート実施にむけて

図 5. 12月上旬までの研修時期と内容

教育目標

- 一、たくましく生きる人間
- 一、創造することのできる人間
- 一、個性をつくりあげていく人間
- 一、共に高まろうとする人間
- 一、広く豊かな心を持つ人間

図 6. 本校の教育目標

1) 情報活用の実践力

課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力

2) 情報の科学的な理解

情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

3) 情報社会に参画する態度

社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

図 7. 情報教育の目標

- 様々な情報手段から情報を適切に読み取り、活用することができる人間
- 情報モラルを尊重し、自ら得た情報を適切に活用できる人間
- 情報の意義や価値を考え、自らも主体的に情報を発信できる人間
- 他者と共に情報を創造的に活用していく人間

図 8. 本校の情報教育で育てたい資質や能力及び態度

によって、各教科において情報活用能力育成の重点を検討・整備することで、教科担当それぞれが、自教科において育むべき資質・能力の方向性を確認できたことは、教科経営上も有意義であった。

なお、この全体計画は、今後、随時見直しを図り、修正・更新していくこととしている。

(2) 情報活用能力育成のためのカリキュラム・マネジメント

本研究では前掲図 8 の本校における情報教育で育てたい資質・能力を育成することを目指すと共に、情報活用能力育成のためのカリキュラム・マネジメントモデルを整理・提案することを目的としている。

今回は、本事業の研究を効果的かつ効率よく推進するために、過年度の IE-School の成果を十分に踏まえ、本校の研究推進過程を設定することとした。

平成 29 年度「情報活用能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントの在り方と授業デザイン」では、新学習指導要領解説総則編で示されたカリキュラムの三つの側面（図 9）をもとに、図 10 で示す

○教科等横断的な視点での取組

児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと

○実施状況の評価と改善

教育課程の実施状況の評価してその改善を図っていくこと

○人的物的体制の確保

教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

図 9. カリキュラム・マネジメントの三つの側面（新学習指導要領解説総則編）

・準備期

情報活用能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントの初年度を想定している。

情報活用能力を育成するための教育課程の編成を行う。

・実践期

準備期で編成した教育課程を各教科等で実践する時期。

・改善期

実践期における各教科等での実践を評価し、成果と課題を把握する。その上で、改善した教育課程の元、各教科等での実践を再び行う時期。

図 10. IE-School で示す【情報活用能力育成のためのカリキュラム・マネジメントモデル】

【準備期・実践期・改善期】を設け、長期的な視点でカリキュラム・マネジメントを捉えることができるよう示された。そこで、本校でもこれらを適用し本校におけるカリキュラム・マネジメントを進めることとした。本校は IE-School 委託初年度のため、【準備期】にあたると思われるが、前年度北海道教育大学附属函館中学校が委託を受けた実践例があることや、全国の実践事例等が豊富にあるために、準備期を中心とするが、1年間のスパンを短い準備期・実践期および改善期として計画を立てることで、効果的且つ即効性のあるカリキュラム・マネジメントができるような取組を目指すこととした。

4. 研究の計画

本研究の具体的な計画は、新学習指導要領解説 総則編に示される教育課程の編成や改善に取り組む際の手順の一例（図 11）を参考にして【黎明期・準備期・実践期・改善期】として計画を以下のように立て、実践することとした。

- (1) 教育課程の編成に対する学校の基本方針を明確にする。
- (2) 教育課程の編成・実施のための組織と日程を決める。
- (3) 教育課程の編成のための事前の研究や調査をする。
- (4) 学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項を定める。
- (5) 教育課程を編成する。
- (6) 教育課程を評価し改善する。

図 11. 教育課程の編成や改善に取り組む際の手順の一例

時期	内 容	図 11 の位置付け					
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
黎明期	5月 拡大研究推進委員会（運営委員会）周知						
	6月 21日 大学に送る。 22日 第1回研究推進委員会（研究部会）にて周知						
準備期	7月 2日 第1回拡大研究推進委員会（運営委員会）状況報告	○	○	○	○		
	4日 職員会議・全校研修で全体周知 ・情報教育・情報活用能力についての研修 ・情報活用能力の要素の視点に基づき、各教科整理 ・アンケート集約周知※自律性アンケートと共に集約 ・教科横断的なカリキュラム表の整理 等	○	○	○	○		
	6日 次世代の教育情報化推進事業 第1回連絡協議会参加						
	13日 アンケート作成〆切						
	20日 アンケート実施〆切			○			
	23日 第2回研究推進委員会（研究部会）		○		○		
	31日 第2回拡大研究推進委員会（運営委員会）状況報告	○	○		○		
	8月 1日 職員会議・全校研修 横断的なカリキュラム見取り表の第一次整理〆切（推進委員会） ●午前中視察日調整シート提出〆切	○	○			○	○
	16日 全校研修 横断的なカリキュラム見取り表の第二次整理〆切（全体）		○			○	○
	23日 第3回研究推進委員会（研究部会） 横断的なカリキュラム見取り表						
24, 5日 東京 セミナー参加							
29日 第3回拡大研究推進委員会（運営委員会）状況報告	○	○			○	○	
実践期	9月 4日 附属函館中学校から研究主任来校						
	6日 ●最終的に提出する5事例程度の指導案の教科一覧〆切						
	7日 職員会議 全校研修	○	○			○	○
	11日 ●①情報活用能力育成の体系表フォーム ③カリキュラム・マネジメントにおける 評価・改善の考え方や手立て作成・提出〆切						
27日 第4回研究推進委員会（研究部会）		○			○	○	
実践期	10月 1日 第4回拡大研究推進委員会（運営委員会）状況報告 ●視察スケジュール〆切	○	○			○	○
	3日 職員会議・全校研修	○	○			○	○
	18日 ●5事例程度の全指導案〆切						
	26日 第5回研究推進委員会（研究部会）		○			○	○
	29日 第5回拡大研究推進委員会（運営委員会）状況報告	○	○			○	○
	11月 5日 職員会議・全校研修 ●視察日	○	○			○	○
27日 第6回研究推進委員会（研究部会）		○			○	○	
29日 第6回拡大研究推進委員会（運営委員会）状況報告 ●修正版指導案提出〆切	○	○			○	○	
改善期	12月 10日 職員会議・全校研修 ●修正案指導案返却	○	○			○	○
	27日 第7回研究推進委員会（研究部会）		○			○	○
	1月 4日 第8回研究推進委員会（研究部会）		○			○	○
	9日 第7回拡大研究推進委員会（運営委員会）状況報告	○	○			○	○
	10日 職員会議・全校研修	○	○			○	○
	16日 ●修正版指導案，原稿〆切						
	28日 第9回研究推進委員会（研究部会）		○			○	○
	31日 第8回拡大研究推進委員会（運営委員会）状況報告	○	○			○	○
	2月 6日 職員会議・全校研修	○	○			○	○
	22日 研究推進委員会（研究部会）		○			○	○
26日 拡大研究推進委員会（運営委員会）状況報告	○	○			○	○	
改善期	3月 1日 職員会議・全校研修 中旬に報告	○	○			○	○

●はIE-School 業務関係

5. カリキュラム・マネジメントによる情報活用能力育成に関する取組

本校の教育課程は全職員が参画すると共に、主幹教諭を要とした教育課程編成委員会の中で検討が進められ、これまで「本校ならではの教育課程」を目指し編成してきた。今回、本事業での情報活用能力の育成の視点から教育課程を編成するにあたり、教育課程編成委員会での理念をもとに情報活用能力育成の視点をプラスして編成することを目指した。

今回の編成では、前年度の事業に参画していた附属函館中学校の取組を中心としながらも、平成 28 年、29 年度の本事業の成果報告を十分に活用することとし、特に横断的カリキュラム見取り表（以下見取り表）と体系表の作成をもって教育課程の編成を進めた。作成においては、推進委員会を中心とした体制（P.4 参照）を構築すると共に、アンケートや全校研修を通じた現状把握、情報活用能力育成について情報共有等の研修を実施し、作成後も、不断の評価改善を推進委員会、拡大推進委員会にて実施し、随時修正、改善を行った。

（1）年間指導計画、横断的カリキュラム見取り表の作成

新学習指導要領総則では、学習の基盤となる資質・能力を育成するために、教科等横断的な視点で教科等の編成を図るものとする事が示されている。そこで、本事業では、本校にて昨年度整理した見取り表を活用し、情報活用能力育成の視点においても整理を進めた。これは、本校が従来取り組んでいた研究をベースとして情報活用能力の育成を目指すための教育課程を編成・整理することにつながるとともに、教科横断的に整理することで、学校全体で情報活用能力の育成を目指すことにつながると考えたからである。

作成では前年度の実績から記載している単元・題材等の加除修正を行うと共に、資質・能力ベースで各教科記すこととした。その際、教科との横断的なつながりを見いだす事が可能な教科担当どうしで話し合いながら進めていった。検討の中では、一方的なつながりでは関連が図れないことから、お互いに学びとしての関連を図れそうなものを提案しながら内容を修正するとともに、同時に情報活用能力の育成に関わる視点についても整備を進めていった。

（2）体系表の作成

体系表は①体制構築、②現状把握、③各種研修、④評価改善のステップを踏み、研修を実施し、作成した。

① 体制構築

最初の研修（第一回スポット研修）では本事業での本校の役割と作成物のイメージの共有化、作成期限や役割分担等を説明した。研修を通して、学校全体でこの事業に参画することを示すと共に、情報活用能力育成の捉えや、取組が「作業」にならないように、上述の見取り表の改善を含め、従来の「授業改善」の視点をベースとした修正・改善を進められるように配慮した。



② 現状把握

最初に各教科の現状を把握するために、年間指導計画の中で、本事業に関連する重点的な単元に印をつけ、現在すでに「無意識的」に取り組んでいる情報活用能力育成に関わる学習単元及び学習方法を「意識化」することから始めた。このことで、職員が何か新しいことを「始める」という負担感を持つことなく、従来の

取組を「意図的」「意識的」に取り組む活動に切り替えることができた。そして、推進委員会の担当者から各教科に体系表作成フォームを振り分けて教科ごとに体系表の作成を推進した。

③ 各種研修

各教科において作成された体系表を推進委員会の担当者がまとめ、推進委員会および全体の場で周知することで、全職員が各教科の内容や情報活用能力の段階（ステップ）を交流しながら記載内容の整理を進めていった。検討では、各教科の段階（ステップ）の捉え方がバラバラになっていたり、記載の仕方、表記等が統一されなかったりなどしたため、研修を通して記載の統一や段階の共有化を図り、整備を進めた。

④ 評価改善

研修を通して整備を進めた体系表は、随時拡大推進委員会で提案、報告を行い、主幹教諭を核としたメンバーで確認をし、助言を受けながら評価改善を進めた。まとめ方や示し方などの交流を受け、再度体系表を整備した。

(3) スポット研修

今回カリキュラム・マネジメントの視点で研究を推進するにあたり、大切にしたことの一つに情報の共有化がある。新学習指導要領においても全教職員が共通の理解をもつことや、適切に役割を分担することが必要とされている。このことから、共通の理解をもち、共通の目的に向かうことができるようにスポット研修の手法を取り入れる工夫を行った。

スポット研修とは H27 年 3 月に文部科学省「21 世紀を生き抜く児童生徒の情報活用能力育成のために」に示された 15 分程度の短い研修のことである。本校における従来の職員会議後に、IE-School に関連するスポット研修を設定することで、全教職員が同時期に共通理解のもとに研究を推進することができた。

また、従来の会議後に設定することで、IE-School のために研修日を新たに設定することで生じる業務負担や時間的な調整等を大きく軽減し、効率化を図ることにもつながった。

スポット研修の内容は図 12 に示すとおりである。12 月までに 7 回のスポット研修を終えており、3 月までには 10 回程度の研修となる見込みである。

研修の中身に関してはフレキシブルではあるが大きく、①情報提供 ②体系表等作成 ③講習の 3 つの内容を実施した。

① 情報提供

今回、IE-School 事業に参画にあたり、円滑に事業を推進するために、初期の段階において職員全体で「情報活用能力とは何か」について共有する必要がある。また、それを捉えた上で、カリキュラム・マネジメントの視点から作成・整備すべき「横断的なカリキュラム見取り表」「体系表」「全体計画」「授業案」等の目

<p>第 1 回 IE-School とは何か 情報活用能力とは何か プログラミング的思考とは何か 組織と実施内容の説明</p> <p>第 2 回 授業案作成について 各教科における情報教育に係る指導の重点について 横断的なカリキュラム見取り表の作成について 体系表作成について 今後の予定</p> <p>第 3 回 アンケート集計の結果報告 横断的なカリキュラム見取り表の整理 体系表の整理</p> <p>第 4 回 横断的なカリキュラム見取り表の整理 体系表の整理 「伝えるチカラ育成セミナー」報告</p> <p>第 5 回 横断的なカリキュラム見取り表の整理 体系表の整理</p> <p>第 6 回 文部科学省視察について 横断的なカリキュラム見取り表の整理 体系表の整理</p> <p>第 7 回 横断的なカリキュラム表の整理 体系表の整理 授業案の修正について アンケートの実施について</p> <p>図 12. 12 月までのスポット研修内容</p>

指すべき姿などを共有することとした。そのため、平成 28 年、29 年の IE-School 事業の成果報告や北海道教育大学附属函館中学校の研究成果報告書を中心として、本事業に関わる情報を担当者が収集し、研修の中で情報提供を図ることで、学校全体で学習を進めていった。

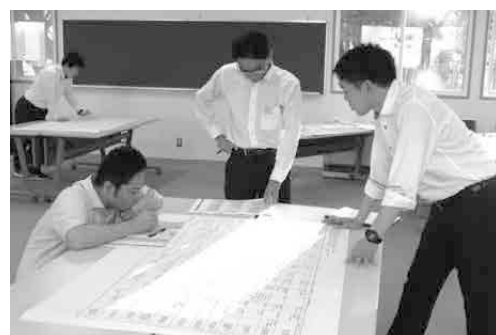
また、計画の中では、本事業の一環として各地域のセミナー等に参加（図 13）した先生方から A4 用紙 1 枚程度の研修報告書を準備してもらい、報告を義務付けることを通して情報共有を適時行い、学校全体で情報活用能力育成の視点で教育活動を推進することの継続を図ることができた。

- ・伝えるチカラ育成セミナー
8月25日 東京都
- ・未来の教育コンテンツ EXPO2018
12月23,24日 東京都
- ・学校とICTフォーラム
1月26日 大阪府
- ・Apple School 認定校視察
1月28日 東京都 Apple 認定校視察
- ・三田国際学園中学校
- ・東京成徳大学中学校

図 13. 参加した各種研修

② 体系表等作成

スポット研修では「横断的なカリキュラム見取り表」や「体系表」等の作成時間や交流時間などの時間も確保してきた。そのことにより、教科ごとの進捗状況の把握や、作成するにあたっての課題の共有をしながら、同歩調、同一方向で整備することができた。特に作成前半においてはこのスポット研修を用いることで、作成のイメージを全体で共有したり、こういった段取りで進めていけばいいのかが共有できたことは整備を進めるに当たり有意義だったと考える。



③ 講習

本事業中には、2つの講習を実施することができた。

一つは昨年度 IE-School 事業に参画していた、北海道教育大学附属函館中学校から研究主任を講師として招き、事業全体の把握と、事業実にあたっての評価・改善をお話いただいた。講演によって本事業の全体概要、他校の実践、実施における具体的な評価・改善の話聞くことができたことは、深い学びとなった。



もう一つは、東京都のアップル認定校（三田国際学園中学校）から講師をお招きし、本校の主力タブレット PC である iPad の活用事例をお話いただくとともに、今後必要になると思われる環境整備、業務の仕方、取組等について研修を進めることができた。

全職員で共通の話聞くことができたことにより、共通の方向と共通の歩調で進めるため有意義な実践となった。

（4）アンケート作成と実施

カリキュラム・マネジメントには事前の準備が不可欠である。新学習指導要領総則にも、教育課程の編成のために事前の研究や調査をすることが「カリキュラム・マネジメントの充実」における手順の一例として示されている。このことから、まず過去の IE-School の実践をもとに、生徒用のアンケート及び教員用のアンケート（P.44～P.47）を作成し、本校における情報活用能力の現状を把握することとした。

① 実践前

番号	項目	4	3	2	1	43の割合
①	インターネットで必要な情報を検索して調べるためにコンピュータやタブレットPCを使う。	30	215	48	4	82.5%
②	発表するためのスライドや資料を作るためにコンピュータやタブレットPCを使う。	6	83	127	81	30.0%
③	インターネットで必要な情報を検索して調べることは得意である。	83	144	52	18	76.4%
④	コンピュータやタブレットPCを使って、発表するためのスライドや資料を作ることは得意である。	28	76	111	82	35.0%
⑤	コンピュータやタブレットPCを使った授業では、情報機器を使用しない授業より興味や関心を持って取り組むことができている。	109	127	45	16	79.5%
⑥	わからないことがあったら、辞書やインターネットなどの調べる方法を考えて、いろいろな方法で調べるようにしている。	146	115	27	9	87.9%
⑦	調べものをするとき、できるだけ多くの資料を集めてから、自分の探していることを見つけるようにしている。	105	97	81	14	68.0%
⑧	文章を読んだだけではわからないとき、図や表に書き直してみるようにしている。	75	105	86	31	60.6%
⑨	いろいろな資料を比べて共通点やちがいを見つけ出すようにしている。	92	134	61	10	76.1%
⑩	いろいろなことを人とはちがった面から考えたり、自分なりの考えを持つようにしたりしている。	107	137	44	9	82.2%
⑪	課題に取り組むとき、筋道を立てて考えるよりは、思いつきで結論を出すことが多い。	39	92	130	33	44.6%
⑫	意見があわないときは、両方の意見を聞いてから、どちらの意見が正しいのかを自分なりに決めるようにしている。	135	131	19	9	90.5%
⑬	学習活動の後は、よかったことや悪かったことについて、ふり返るようにしている。	79	138	65	12	73.8%
⑭	自分の聞いた話や集めた資料が本当に正しいのかについて、よく考えるようにしている。	113	135	39	7	84.4%
⑮	調べたことをもとに新しいものをつくりだしたり、自分の考えを出したりするようにしている。	92	149	43	10	82.0%
⑯	問題を見つけたときは、解決方法を考えるようにしている。	165	101	16	12	90.5%

図 14. 生徒用アンケートの結果（7月）

上図 14 は 7 月に実施した結果である。本校の全校生徒の約 83% が、項目 1 「インターネットで必要な情報を検索して調べるためにコンピュータやタブレット PC を使用している」実態があり、日常的に ICT に触れ、活用している状況下にあることがわかった。しかし、インターネットで必要な情報を検索して調べることが得意と答えた生徒（4 の段階）は、全体の 30%、発表するための資料を ICT を用いて作成することが得意と答えた生徒（4 の段階）は全体で 10% 程度であり、学習等には十分に活用されているとは言えない現状が見られた。

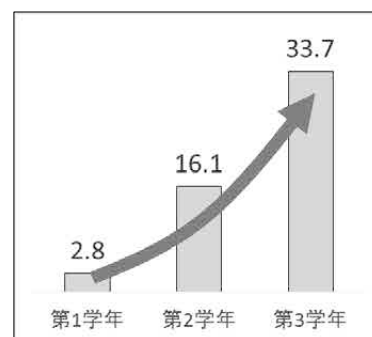


図 15. 「ほぼ毎日利用する」の各学年の割合（単位は%）

一方、項目 1 の「インターネットで必要な情報を検索して調べるために…」において「ほぼ毎日利用する」と回答した生徒は学年ごとに第 1 学年 2.8%、第 2 学年 16.1%、第 3 学年 33.7% となっていることから、学年を追うごとに活用度合いは上がる傾向にあることもわかった。（図 15）

教職員の実態は図 16, 17 に示した。アンケートは 2 つの側面を持ち、「指導実績」の側面を図るものと（図 16）、「指導スキル」（図 17）の側面をみとるものに分けた。

番号	項目	4	3	2	1	平均値	全平均
1	インターネットで必要な情報を検索して調べるためにコンピュータやタブレットPCを使うこと。	1	5	6	5	2.1	2.4
2	発表するためのスライドや資料を作るためにコンピュータやタブレットPCを使うこと。	2	1	4	10	1.7	
3	目的に応じて、辞書やインターネットなどの情報収集方法を検討し、実際に情報収集させること。	1	8	4	4	2.4	
4	インターネットで収集した情報の客観性、信頼性、妥当性を読み取らせること。	2	3	7	5	2.1	
5	いろいろな情報を比較・関連付けさせたり、多角的に考察させたりするなどして判断させること	10	5	2	0	3.5	
6	コンピュータやタブレットPCなどを活用して、生徒同士が教え合い学び合う学習（協働学習）を行わせること。	2	3	5	7	2.0	
7	集めた情報と自分の知識・経験をもとに、新たな情報や価値ある情報を創造し提案させること。	5	5	6	1	2.8	
8	コンピュータやタブレットPCなどを活用して、生徒に課題発見・解決型の学習を行わせること。	3	1	5	8	1.9	
9	学習活動の記録や成果物を活用して、学習や活動について振り返りながら、新たな課題や改善点に気づかせること	5	7	4	1	2.9	

図 16. 教員用アンケート（指導実績）

番号	項目	4	3	2	1	平均値	全平均
10	インターネットで必要な情報を検索して調べるためにコンピュータやタブレットPCを使うこと。	8	9	0	0	3.5	3.1
11	発表するためのスライドや資料を作るためにコンピュータやタブレットPCを使うこと。	7	8	1	1	3.2	
12	目的に応じて、辞書やインターネットなどの情報収集方法を検討し、実際に情報収集させること。	6	10	1	0	3.3	
13	インターネットで収集した情報の客観性、信頼性、妥当性を読み取らせること。	3	11	3	0	3.0	
14	いろいろな情報を比較・関連付けさせたり、多角的に考察させたりするなどして判断させること	3	14	0	0	3.2	
15	コンピュータやタブレットPCなどを活用して、生徒同士が教え合い学び合う学習（協働学習）を行わせること。	1	11	5	0	2.8	
16	集めた情報と自分の知識・経験をもとに、新たな情報や価値ある情報を創造し提案させること。	3	13	1	0	3.1	
17	コンピュータやタブレットPCなどを活用して、生徒に課題発見・解決型の学習を行わせること。	3	8	6	0	2.8	
18	学習活動の記録や成果物を活用して、学習や活動について振り返りながら、新たな課題や改善点に気づかせること	4	11	2	0	3.1	

図 17. 教員用アンケート（指導スキル）

すべての項目より、「指導実績」の全平均値は 2.4, 「指導スキル」は 3.1 となり, 教職員の ICT 活用への意識や活用技量の実態が明らかとなった。項目別に見ると, 特に項目 5 「いろいろな情報を比較・関連…」に関しては平均値 3.5 となり, どの教員においても授業で実践していることがわかった。一方, 項目 2 「…発表するための…」では平均値 1.7 となり, 他に比較すると実践が少ない現状が見られた。また, 「指導スキル」に関わっては, 項目 15 「…協働学習…」項目 17 「…課題発見・解決型…」に関しては平均値が他よりも低い数値となっており, 課題の一つであることがわかった。

② 実践後

番号	項目	4		3		2		1		平均値		
		7月	12月	7月	12月	7月	12月	7月	12月	7月	12月	
1	インターネットで必要な情報を検索して調べるためにコンピュータやタブレットPCを使うこと。	1	0	5	7	6	8	5	2	2.1	2.3	△
2	発表するためのスライドや資料を作るためにコンピュータやタブレットPCを使うこと。	2	0	1	1	4	11	10	5	1.7	1.8	△
3	目的に応じて, 辞書やインターネットなどの情報収集方法を検討し, 実際に情報収集させること。	1	0	8	8	4	6	4	3	2.4	2.3	▼
4	インターネットで収集した情報の客観性, 信頼性, 妥当性を読み取らせること。	2	0	3	7	7	7	5	3	2.1	2.2	△
5	いろいろな情報を比較・関連付けさせたり, 多角的に考察させたりするなどして判断させること	10	6	5	7	2	4	0	0	3.5	3.1	▼
6	コンピュータやタブレットPCなどを活用して, 生徒同士が教え合い学び合う学習(協働学習)を行わせること。	2	1	3	6	5	7	7	3	2.0	2.3	△
7	集めた情報と自分の知識・経験をもとに, 新たな情報や価値ある情報を創造し提案させること。	5	3	5	5	6	8	1	1	2.8	2.6	▼
8	コンピュータやタブレットPCなどを活用して, 生徒に課題発見・解決型の学習を行わせること。	3	1	1	4	5	10	8	2	1.9	2.2	△
9	学習活動の記録や成果物を活用して, 学習や活動について振り返りながら, 新たな課題や改善点に気づかせること。	5	5	7	6	4	5	1	1	2.9	2.9	-

図 18. 教員用アンケート (指導実績) 比較

番号	項目	4		3		2		1		平均値		
		7月	12月	7月	12月	7月	12月	7月	12月	7月	12月	
10	インターネットで必要な情報を検索して調べるためにコンピュータやタブレットPCを使うこと。	8	9	9	8	0	0	0	0	3.5	3.5	-
11	発表するためのスライドや資料を作るためにコンピュータやタブレットPCを使うこと。	7	9	8	7	1	1	1	0	3.2	3.5	△
12	目的に応じて, 辞書やインターネットなどの情報収集方法を検討し, 実際に情報収集させること。	6	7	10	10	1	0	0	0	3.3	3.4	△
13	インターネットで収集した情報の客観性, 信頼性, 妥当性を読み取らせること。	3	6	11	9	3	2	0	0	3.0	3.2	△
14	いろいろな情報を比較・関連付けさせたり, 多角的に考察させたりするなどして判断させること	3	6	14	10	0	1	0	0	3.2	3.3	△
15	コンピュータやタブレットPCなどを活用して, 生徒同士が教え合い学び合う学習(協働学習)を行わせること。	1	6	11	10	5	1	0	0	2.8	3.3	△
16	集めた情報と自分の知識・経験をもとに, 新たな情報や価値ある情報を創造し提案させること。	3	7	13	7	1	3	0	0	3.1	3.2	△
17	コンピュータやタブレットPCなどを活用して, 生徒に課題発見・解決型の学習を行わせること。	3	7	8	8	6	2	0	0	2.8	3.3	△
18	学習活動の記録や成果物を活用して, 学習や活動について振り返りながら, 新たな課題や改善点に気づかせること。	4	7	11	9	2	1	0	0	3.1	3.4	△

図 19. 教員用アンケート (指導スキル) 比較

図 18, 19 は教師用のアンケートの結果である。多くの項目でプラスに転じたことが認められた。特に「指導実績」の部分では項目 6 「…教え合い学び合う学習を…」の平均値が上昇したことから, 多くの教科等において, ICT を活用した協働的な学習を実践してきたことがわかる。また, 項目 8 「…生徒に課題発見・解決型の学習…」の項目の上昇から, 情報活用能力の育成に寄与する授業改善が行われたことがわかった。

「指導スキル」の部分に関しては (図 19), 特に項目 15 「…教え合い学び合う学習を…」, 項目 17 「…生徒に課題発見・解決型の学習…」の部分の上昇が顕著に見られ, 職員が授業において ICT を活用し, 協働的な学習に取り組んだことにより, 指導スキルの向上に実感が得られていると考えられる。

教職員の変化を受け, 生徒実態にも変化が認められた。7月と12月のアンケート結果 (生徒用) において

は多くの項目においてわずかではあるが増加が認められた。学年ごとに見ると第 1 学年では多くの項目で減少が見られ (図 20), 第 2 学年, 第 3 学年では多くの項目において伸長した結果となった (次掲図 21, 22)。

特に第 2 学年, 第 3 学年の項目 1, 2 の割合が上昇しているのは, 第 2 学年第 3 学年において, 授業において活用の割合が高まったことが起因していると思われる。また, 項目 4 の「…資料を作ること」や項目 7 「…できるだけ多くの資料を集めてから…」の割合

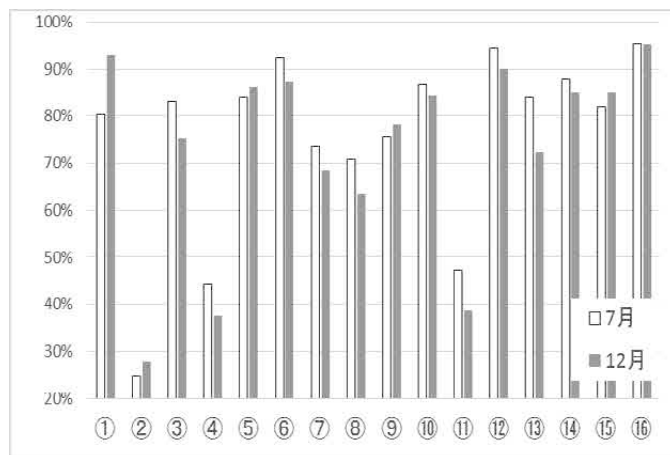


図 20. 第 1 学年のアンケート結果の比較

が高まったことは、情報活用能力育成に向けた授業を通して、生徒一人ひとりがその効果を強く実感している可能性がある。特に顕著な伸びが見られたのは第 2 学年である（図 21）。いくつかの項目で 10% 以上の上昇が見られ、特に項目 5 「…興味や関心を持って…」、項目 6 「…いろいろな方法で調べる…」、項目 16 「…解決方法を…」の伸長はプログラミング的思考の育成に向けた ICT を活用した授業等の影響があったのではないかと考えられる。

一方、第 1 学年は減少の傾向が見られた。このことは推測ではあるが、小学校時に最高学年として ICT を使う機会を多くもってきた生徒達が、中学校の段階的なカリキュラムにおいて、使用頻度や活用状況が小学校時に比べ低かったのではないかと考えられる。これは、今後カリキュラムを編成する際に留意する必要があることがわかった。

アンケートの結果、本事業を通して、職員全体で情報活用能力育成の視点からカリキュラム・マネジメントを推進するための共通の目的を、研修等を通じて実施できたことが大きな影響を与えたと考える。また、本事業を受けて、本校では、技術科と美術科で合科の取組【TA (Technology & ART)】の立ち上げ、Apple Teacher プログラムへの参加などが行われた。このことは、校内外の研修で研鑽したことなどが寄与したと考えられる。

さらに、本校独自の学習アンケート「スクールサーベイ」（図 23）では、質問 1 「今まで関係がないと思っていたことにも、こんなつながりがあるかとはじめて知った」、質問 2 「わからない（できない）こととわかった（できた）ことがはっきりした」の数値がともに昨年度比での上昇が見られた。情報活用能力育成のためのカリキュラム・マネジメントを通して教科横断的な実践や、各教科で学習活動の振り返りを行う活動を取り入れた今年度の取組が、一端を担っている部分もあると考えられる。

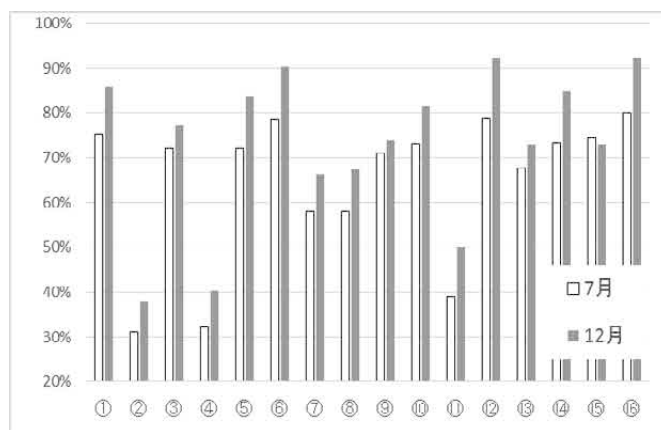


図 21. 第 2 学年のアンケート結果の比較

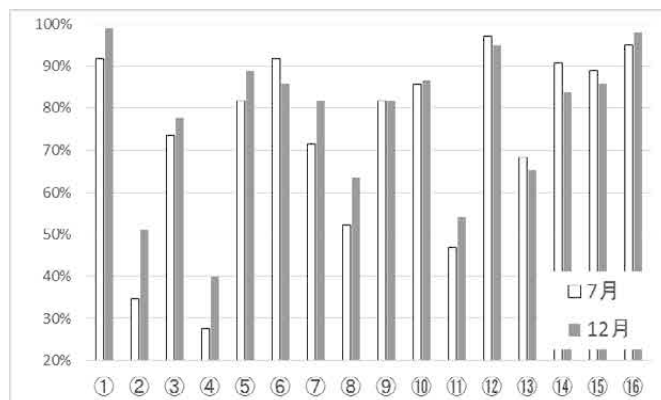


図 22. 第 3 学年のアンケート結果の比較

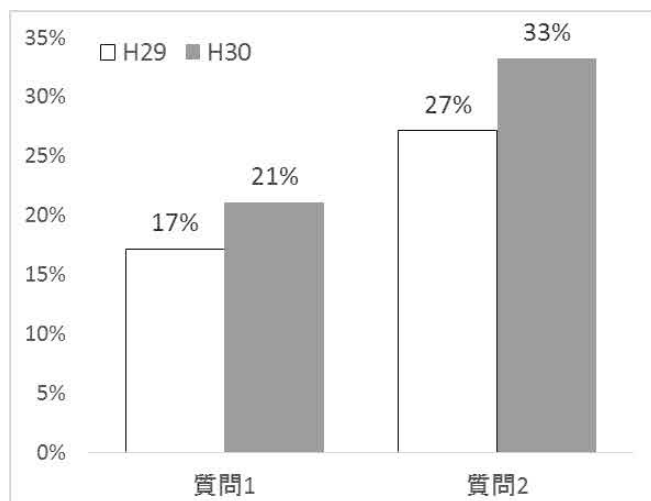


図 23. スクールサーベイの経年比較

6. 代表的な実践

(1) TA (Technology&ART) の実践

① 目指す情報活用能力について

本実践は、中学校生活を充実させるためのプロダクトを創造し、それを発信するという題材を通して情報

活用能力を培うことを目標とした。題材前半はプロダクトデザイン、後半はwebデザインという2つの課題探求のサイクルにおいて技術・家庭科の技術分野ではユーザビリティ、美術科ではUI（ユーザーインターフェイス）デザインというそれぞれの観点から情報収集や整理、解決策や改善案を見出し新たな価値を創造しようとする力の育成を目指した。



② 実践



題材前半は、中学校生活を充実させるためのプロダクトを創造するために、自らの生活を振り返り、TAシートを用いて充実させるために課題となるものや、必要となるものの視点を見出し、グループで共有することで思考を広げた。交流では、課題を明確にするために、なぜそれが課題となり、それが解決されることでどうなるのかを議論することに重点を置いた。その後、それぞれの視点から解決策を個人で

考えた後グループで再検討し、中学校生活を充実させるために最も解決したい課題や必要となるものを選択していった。技術分野では製品の進歩の過程を取り上げ、材料と加工に関する技術やエネルギー変換に関わる技術などの内容を振り返りながらプロダクトデザインに必要な観点を見出し、それらの観点からグループで検討を重ねた。

題材後半は、デザインしたプロダクトを架空のクラウドファンディングを利用して出資者を募ることを目的とし、webデザインツールを用いてプロダクトを紹介するサイトを作成した。充実したUX（ユーザーエクスペリエンス）を達成するために、実際のwebサイトを比較しどのような工夫がされているか見出し、技術分野ではユーザビリティ、美術科ではUIデザインの観点を持たせ、グループ内での中間発表や交流を通してサイトの再考を重ねた。

③ 成果と課題

本実践を通して、合科によって重なり合う資質・能力を効果的に育成することが可能であると考え。そのためには題材前に各教科で獲得しておかなければならない資質・能力があり、またそれぞれの教科がその題材を通して、どのような資質・能力を育成していくかを明確にしていなければ効果的な実践には成り得ない。したがって、各教科の題材や単元において、どのような資質・能力を獲得させるかを明確にした教科のカリキュラムを構築していく必要があると考える。



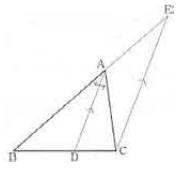
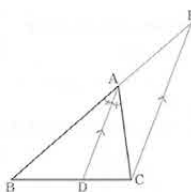
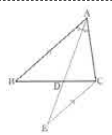
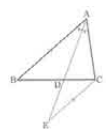
(2) 数学科の実践

① 目指す情報活用能力について

数学科では、特に問題解決・探究における情報を活用する力の育成を意識して取り組んできた。本単元では、実測から見いだした図形の性質を、図及び式を用いて、他者が理解できる一般化された形で表現する能力を意図的・計画的に育成することに視点をあて実践した。

② 実践

本時の目標は、「既習の定理を活用して、三角形の角の二等分線と線分の比の定理についての証明の方針を説明することができる」である。まずは Before 指導案で授業をし、事後研究をした。そして、After 指導案のように情報活用能力（実測から見いだした図形の性質を、図及び式を用いて、他者が理解できる一般化された形で表現すること）を育成する視点で授業改善し、もう一度授業研究をした。

Before 指導案	After 指導案
学習活動 (●:教師, ○:生徒)	学習活動 (●:教師, ○:生徒)
1. 問題提示 (上の問題) ●教師が図を板書すると同時に、生徒にもノートに図をかかせ、「BD:CD は？」と問い板書し、問題提示する。	1. 問題提示 (上の問題) ●二等辺三角形の頂角の二等分線は、底辺を 2 等分することを確認した後、教師が図を板書すると同時に、生徒にもノートに図をかかせ、「BD:CD は？」と問い板書し、問題提示する。
2. 予想 ●「予想しよう」 ○「2:1」(「見た目で」「10:5=2:1 だから」など) ●「どのように確かめればよいのかな？」 ○実測する (どうやら 2:1 っぽい、みんな図は違うのに不思議)	
3. 課題把握 どんな図でも $AB:AC=BD:CD$ は成り立つのかな？証明の方針を説明しよう。	3. 課題把握 いつでも $BD:CD=2:1$ は成り立つのかな？証明の方針を説明しよう。
4. 個人思考・集団思考 ① ・平行線の同位角の性質 ・平行線の錯角の性質 ・二等辺三角形の定義 ・平行線と比の定理 	4. 個人思考・集団思考 ① ・平行線の同位角の性質 ・平行線の錯角の性質 ・二等辺三角形の定義 ・三角形の相似 
答 2:1	答 2:1
② ・平行線の錯角の性質 ・二等辺三角形の定義 ・三角形の相似条件 	●どんな既習の定理を利用したのが問い返し、考えをを広げ深めていき、その後、定理についてまとめる。 ●「ほかの補助線のひき方でも、証明できないかな？」
③ ・三角形の相似条件 ●定理についてまとめる。	5. 練習問題 次の図を使って三角形の角の二等分線と線分の比の定理についての証明の方針を説明しなさい。 

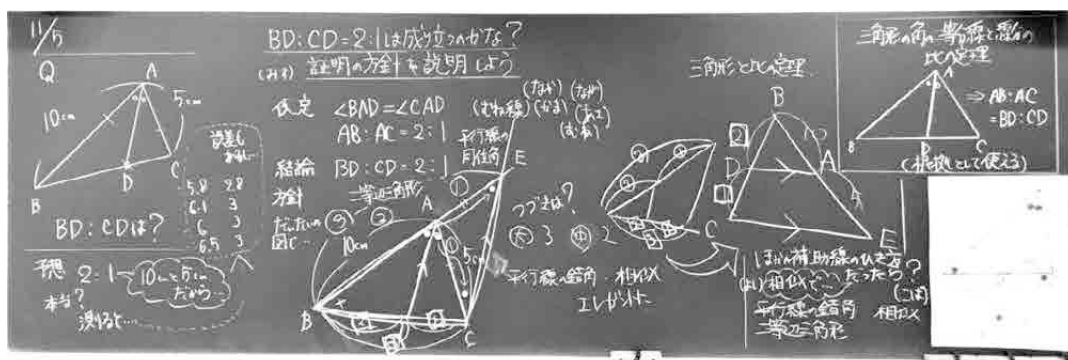
第一に、Before では、課題「どんな図でも $AB:AC=BD:CD$ は成り立つのかな？」では、「生徒にとって飛躍した課題となってしまっていて、下げ降ろしのようになっている。実測から見いだした図形の性質を一般化しようという意欲を高める課題となっていないのではないか」という意見が上がった。そこで、After では、数人の実測の考えを取り上げて、「いつでも $BC:DC=2:1$ になるのかな？」と問いかけ、課題把握につなげた。こちらの課題の方が生徒の思考の流れに沿っており、自然な文脈をつくることができた。

第二に、Before では、「集団思考ができる生徒の発表会のようになっている」という意見があった。そこで、After では、考えの一部や途中までを取り上げて、生徒どうしで説明し合うことを通して、証明の方針の説明に至るように問い返しの工夫をした。この改善により、After では、一部の生徒だけではなく、学級全体で本時の目標達成に向かう授業となった。なお、本時の板書は次の通りである。

③ 成果と課題

「実測から見いだした図形の性質を、図及び式を用いて、他者が理解できる一般化された形で表現するこ

と」の情報活用能力の視点による授業改善を図った本実践の成果は、課題の改善により、文脈が自然となったことや、問い返しの改善により



他者が理解できる一般化された形で表現しようとする意欲を高めることができたことである。本実践の課題は、単元の他の授業でも日常的に継続して本時のような授業改善をしていくことと考える。

7. おわりに

今年度は IE-School に参画し、本校でかねてから推進してきた「自ら学ぶ意味を創造できる生徒の育成」という主題を、情報活用能力育成の視点を通してカリキュラム・マネジメントすることを目指した研究を進めてきた。委託初年度ということもあり手探りで始めた本研究ではあったが、カリキュラム・マネジメントの手順を生かし、また昨年度までの成果報告書を活用し、組織を確立し、計画を立て、アンケートを通じた実態把握及びスポット研修等を行うことで、一定の成果を見ることができた。しかし、本校においては研究初年度であり、まだ十分な成果と言いきれるものではない。また、今回の事業を通して作成した体系表や横断的なカリキュラム見取り表のよさや役割は、次年度以降にどのように評価改善をしながら、「本校ならではの教育課程」へと持続的につなげることが重要だと考える。さらに、新学習指導要領では情報活用能力は言語活動、問題発見・解決能力等と並ぶ学習の基盤となる資質・能力と位置づけられていることから、今後とも継続して取り組むことで本校の「自ら学ぶ意味を創造できる生徒の育成」につながると考えられるため、これからもカリキュラム・マネジメントを進めると共に、実践的な教育活動を推進していきたい。

拙い実践ではありますが、諸先生の奇譚の無いご指導、ご指摘をいただければ幸いです。

8. 参考文献

- ・文部科学省 (2018). 『次世代の教育情報化推進事業 (情報教育の推進等に関する調査研究) 成果報告書 情報活用能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントの在り方と授業デザイン』
- ・文部科学省 (2018). 『次世代の教育情報化推進事業 (情報教育の推進等に関する調査研究) 成果報告書 ICT 活用の在り方と質的評価』
- ・内田洋行 (2017). 『情報通信技術を活用した教育振興事業「教育の情報化の推進に関する調査研究」成果報告書「情報活用能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントの導入」』
- ・北海道教育大学 (推進校: 北海道教育大学附属函館中学校) (2018). 『平成 29 年度次世代の教育情報化推進事業 情報活用能力の育成等に関する実践的調査研究 情報教育の体系的な推進 研究成果報告書』
- ・北海道教育大学附属函館中学校 (2018). 『研究紀要 「新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開」～カリキュラム・マネジメントを支える『評価』の工夫～』
- ・文部科学省 (2016). 『21 世紀を生き抜く児童生徒の情報活用能力育成のために』
- ・北海道教育大学附属函館中学校 (2018). 『ICT を活用した教育の展開～Chromebook による G suite for education～』
- ・文部科学省 (2018). 『小学校プログラミング教育の手引き (第一版)』
- ・北海道教育委員会 (2017). 『次世代の教育情報化推進事業報告書 (情報活用能力の育成等に関する実践的調査研究) 情報教育の体系的な推進 (第 2 年次) 北海道浦河高等学校 外 3 校』
- ・北海道教育大学附属釧路中学校 (2017, 2018). 『研究紀要』
- ・鈴木 寛 (2018). 『2030 年に向けた日本の教育制作について』



研究成果物



横断的カリキュラム見取り表 2018

作成までの取組 ①H29年度作成 ②H30.3までに各教科見直し ③H30.6各教科資質能力ベースで具体的なつながりを再確認 ④H30.7.8夏休みを活用し、各教科間において修正・検討

	国語	対象月	社会	対象月	数学	対象月	理科	対象月	音楽	対象月	
国語	1年				◎●言葉のゆれを考える ・図表データの事実・意見との関連		◆「花の形に秘められた不思議」 1年「植物の世界」 ◆「電子レンジの発想」 3年「化学変化とイオン」	1(7) 3(5)			
	2年		◇◆古文・漢文教材と歴史との関連	全			◆「ガイアの知性」 2年「動物の世界と生物の変遷」	2(4)			
	3年		◇◆「歴史は失われた過去か」 「文化としての科学技術」 3年「私たちの暮らしと現代社会」	1			◆「新しい博物学の時代」 ・科学的な知識に関連した教材	全			
社会	1年	◇「中世の日本」 2年「平家物語」	9						◇◆「世界の諸地域」 1年「アジアにおける日本の魅力」 ◆「世界の諸地域」 2年「コール&レスポンス」 2年「情景と音楽Ⅱ」 3年「音に込められた思い」	10	
	2年				◇「日本の地域構成」 1年「正の数、負の数」	5	◇◆「日本の諸地域」 3年「自然の恵みと気象災害」	10	◇◆「日本の諸地域」 2年「発見！日本の魅力Ⅱ」	10 2	
	3年										
数学	1年			◆◇「正の数、負の数」 2年「日本の地域構成」	4		◇◆「方程式」 2年「電流」 ◇◆「比例と反比例」 1年「身のまわりの物質」 ◇◆「平面図形」 1年「光の反射・屈折」	8 10 11			
	2年						◇◆「連立方程式」 1年「身のまわりの物質」	5			
	3年						◇◆「関数y=ax ² 」 3年「運動とエネルギー」	8			
理科	1年	◇レポートの考察場面において、論理的に記述する力	全(通)	◆「火山活動と火成岩」 「地震と大地の変化」 ・自然災害によって起こった災害と歴史について	1(10) 2(5)	◇◆「水溶液の性質」 2年「連立方程式」 具体的な場面で活用 ◆◇「物質の状態変化」 1年「関数」 ◆◇「光の反射・屈折」 1年「平面図形」	6 10				
	2年					◇「電流と電圧」 1年「方程式」	1				
	3年			◇「自然の恵みと災害」 2年「日本の諸地域」	2	◇◆「力と運動」 エネルギーと仕事 1年「関数」	9				
音楽	1年		◆◇「日本の民謡」 1年世界の諸地域 2年日本の諸地域	3							
	2年	◇「モチーフと音楽」 「絵画と音楽」 1年「芸術作品の鑑賞文を書く」	5 12	◆◇「発見！日本の魅力Ⅱ」 2年日本の諸地域 ◆◇「コール&レスポンス」 1年世界の諸地域 北アメリカ ◆◇「情景と音楽」 1年世界の諸地域 ヨーロッパ	8 10 11						
	3年	◇「学校CM」 1年「自分CM」とのつながり ◇「発見！日本の魅力Ⅲ」	5 6 1	◇◆「曲にこめられた思い」 1年「世界の諸地域」ヨーロッパ ◆◇「発見！日本の魅力Ⅲ」 1年「 中世・近代の日本の文化の特色	5						
美術	1年	◆「フチユグナル美術展をつくらう」 鑑賞における自己の考えのまとめかた・書き方	11	「地域の美術や日本の美術作品に関わる鑑賞」文化や時代背景の側面から書き方		◆◆「moment by moment」多角形 1年「空間図形」	1	「季節を味わう」 1年「植物の世界」 「色を語る」 2年「動物の世界と植物の変遷」	8 2(4)		
	2年	◆「日本の美術」 古文・漢文の関わり ◆「動きのある4コマ漫画」オノマトペ	1(4) 3(7) 2(9)					「美しく光を透かすランプシェード」 1年「光の性質」	2		
	3年					●トリックアート	4		◇◆●学校CMを作らう 3年「学校CM」	7	
保健体育	1年	◇「協働の場面における論理的に説明する力」 ・アイデアを出して話し合う ・友達の話を開く 話し合うこと考えること						◇「心身の機能の発達」 2年「動物の行動の仕組み」 ◇「アレルギー」 1年「光の性質」 ◇「マツト運動」 ◇「走り幅跳び」 3年「運動とエネルギー」	2 9 7	◇「ダンス・YOSAKOIソラン」表現力を高めよう	11
	2年				◇体づくり運動 1年「資料の分析と活用」	4	◇走り高跳び 3年「運動とエネルギー」	9	◇「HIPHOPダンス」表現力を高めよう	5	
	3年				◇体づくり運動 1年「資料の分析と活用」	4	◇「柔道」 1年「力の働き」 3年「運動とエネルギー」	6	◇「シンクロナビフォーメーション」表現力を高めよう	8	
技術・家庭科	1年										
	2年										
	3年						◇◆「電気エネルギーの利用と変換」 運動とエネルギー	7			
英語	1年	◇Listening Tips「話すこと」【発表】 1年「自分をCMLしよう」 ◇Time for World「話すこと」【発表】 「フリップを用いてお気に入りの・・・」 目的や場面に応じて 1年「自己紹介をしよう」	9 2	●「オーストラリアの観光地から」 オセアニア	1	●「Project3」 表やグラフを用いた発表・資料の活用	2			全	
	2年	◇◆「Writing Tips」書くこと 2年「お礼の手紙を書くこと」	8	●「Spring Vacation in Okinawa」 日本の様々な地域 ●「Guide Dogs」 時事問題を取り上げた内容 ●「Lesson7 Through the Internet」 世界の諸地域	4 5	●「Through the Internet」 比較表現	11	●「Water Problems」気象とその変化 ●「Optional Reading Six Amazing Things about Penguins」	1 2		
	3年	◇◆話すこと【やりとり】 「Lesson6 Why do you have to work?」 ・根拠を上げて述べる 話すこと	11 12	●「アンネの日記」 ●「John Mung」	8 3						

例1

●単元での関わり ◆教科の見方・考え方のつながり
◇協働や各教科の資質・能力を培うための基礎としてのつながり

北海道教育大学附属釧路中学校

美術	対象月	保健体育	対象月	技術・家庭科	対象月	英語	対象月	総合	対象月
◇●「行イ」写真と言葉が生み出す世界」[読] 2年「ファインダーをのぞいて」 3年「記憶に残したい風景と言葉」	6	○オノマトペや論理的に説明する力	全			◇「自分をCMLしよう」 「フリックを用いてお気に入りの古典を紹介する」[話] 1年「自己紹介をしよう」 「好きな漫画やアニメなどについて発表しよう」 ◇書くこと「お礼の手紙を書く」 2年「Writing Tips」	4 10	○アンケート、インタビューなどの情報収集・スピーチ、プレゼンテーションなどの表現活動・手紙の書き方	全 (通)
◆「無言館の青春」鑑賞全集	2					◇●「少年の主張」[読] 「根拠をあげて述べる。ディベート②」 3年「Lesson6」	4 9		
◆「日本の文化」 ◆「海外の文化」に関わる歴史的視点からの理解						◆「世界の諸地域」各国の文化との関連		◆「地理的側面から」くしろ再発見	
◇●「空間図形」 1年「moment by moment」	12	◇●「資料の分析と活用」 1年「体づくり運動」	3	◇●「私たちの暮らしと現代社会」 2年「情報の技術」	7			◆「福祉の課題を追究しよう 卒業研究との関連」 ●「資料の分析と活用」	全 (通)
								●「確率」	全 (通)
◆「光の性質」 ・光を波長などの科学的に捉える事と色の見え方について	1(9)							●「標準調査」	全 (通)
		◇●「力と運動」 「エネルギーと仕事」 1年、3年「バレーボール」 2年、3年「柔道」	9	●「エネルギーの移り変わり」 電気エネルギーの利用と変換	2	●「動物のなかま」 ●「気象とその変化」		●「植物の世界」くしろ再発見(釧路湿原)	1
		◇「ダンス・YOSAKOI」表現力を高めよう	11						
	12	◇「HIPHOPダンス」表現力を高めよう	5						
◇●「学校CMをつくらう」 ◆「発見！日本の魅力Ⅲ」 「絵巻物の世界」 日本の美術作品から 伝統や文化のよさや美しさ	6 1	◇「シンクロパフォーマンス」表現力を高めよう	10						
				●「季節を味わう」植物の育成	8	◆「フチュワル美術館」 ・海外の美術館とその地域について	11	◆「くしろ再発見」 ・プレゼンテーションにおける他者に伝えるための見せ方	1
						◆「諸外国の美術や文化に触れる」		◆「他都市を見つめて」 ・歴代会資料の制作	2
				●「remake restyle」 製作品の製作	1				
				●「健康の成り立ち」色の役割と食生活の見直し					
◆project1ミニ英字新聞を作ろう	6			●「Soccer Robot」プログラミング、インターネットの構成	5			◆「アンケート、インタビューなどの情報収集」 ●「Lesson7 Through the Internet」 職業調べ	全
								◆「Internship」職場体験活動報告 ●「Lesson7 Through the Internet」 他都市を見つめて	8
								◆「スピーチ・プレゼンテーションなどの表現活動」 ◆「Lesson7 Through the Internet」 卒業研究	全

【特別の教科 道徳】との関連
●別業にて、各教科との関連を記載している。
●各教科の年間指導計画に、道徳との関連を記載している。
●次年度、道徳を含めた教科主任会議を行い、本カリキュラムに追記していく方向性である。

【横断的カリキュラム見取り表】の使い方と整備の方向性について
●本カリキュラムは、各教科において資質・能力をより効果的に培うために、他教科等との関連を意識した方が良いと思われる単元や教科の内容について、一覧にまとめたものである。
●各教科において関連をもたせた方が効果上がる授業について太枠で示した。また、太枠で示した各教科の関連の詳細は次のページより示す学年ごとのカリキュラム内に記載した。

●横軸に自教科を据え、縦軸にある他教科との関わりが考えられる単元について自教科の単元を上に、他教科の単元等を下に記載している。

●左真例1
・数学科において理科との横断が効果的であると認識しているのは、
1年「方程式」-「2年電流」
「比例と反比例」-「1年身の回りの物質」
「平面図形」-「1年光の反射・屈折」
2年「連立方程式」-「1年身のまわりの物質」
3年「関数y=ax²」-「3年運動とエネルギー」であることを示している。

●この一覧は、職員室に掲示し、随時赤を入れたり、計画を立てる際の参考とする。実施時期を移動できるものに関しては、効果的な時期を検討して行う。

第1学年 横断的カリキュラム見取り表

- このカリキュラム表は前掲の「横断的カリキュラム見取り表2018」の学年ごとの詳細を示した表である。
- 矢印は各教科における資質・能力ベースでのつながり・関わりを示した。
- このカリキュラム表は、前掲のカリキュラム表と併用することによって縦のつながりだけでなく、横のつながりを意識するためのものである。
- このカリキュラム表は前掲の「横断的カリキュラム見取り表2018」と同様に、随時赤をいれながら更新していくものである。

◇【情活】の欄は本校における情報活用能力育成の観点を記載している。各教科において情報活用能力育成の観点から特に該当する単元に、右図の表を元に記載した。

【情活】：情報活用能力の育成の観点を記載

情報活用能力の育成の観点		情報活用能力の育成の観点	
A	知識及び技能	1 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解
	問題解決・探究における情報活用の方法の理解	2 問題解決・探究における情報活用の方法の理解	①情報収集、整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の評価・改善のための理論や方法の理解
	情報モラル・セキュリティなどについての理解	3 情報モラル・セキュリティなどについての理解	①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・セキュリティの理解
B	思考力、判断力、表現力等	1 問題解決・探究における情報を活用する力(プログラムミング的思考、情報モラル・セキュリティを含む)	①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力 等
	学びに向かう力、人間性等	2 問題解決・探究における情報活用の態度	①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、改善しようとする態度 ③責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ④情報社会に参画しようとする態度
C			

4月	国語		社会		数学		理科		英語		音楽		美術		保健		技家		
	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	
	・【話・聞】自分をCMしよう ・【読】(1)ア 目的や場面に応じて、日常生活の中かに活用を求め、適切な材料を整理し、伝え合う内容を探求すること、の構成や展開、表現の仕方について、深掘りして考えること ・【語】河童と蛙ぶしき	A2① 第1編 世界の様々な地域	第1章 世界の地域構成	1章 正の数、負の数 ア(ウ) 具体的な場面で正の数と負の数を表し、たりすること イ(イ) 正の数と負の数を具体的な場面で活用すること 社会科 第1学年 5月 「日本の地域構成」 ア(イ) 我が国の国土の位置、世界各地の陸地、領土の範囲や変化やその特色などを基に、日本の地域構成を大観し、理解すること	1年 エンターテインメント・理科 「身のまわりの物質」 「身のまわりの物質」 2年 社会 体系表 B1 STEP3 正負の数 (タブレット等) 1章 物質の区別	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」
5月	・【言】漢字の広場「部首」 ・【読】オツペと象 ・【話・聞】聞き方入門 ・【書】体験したことや文章に書く ・【読】「音を聞いて、音を書き」	A2② 第2編 世界の歴史と文化 第1章 歴史のつらな方 第1節 時代の区分と移り変わり 第2節 身近な地域の歴史を調べよう 第3節 各時代の特色	第2章 素数と除法 第3章 正負の数 第4章 正負の数の利用	1章 物質の区別 2章 気体の性質	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」	1年 エンターテインメント 「身のまわりの物質」

6月	7月	8月
<p>国語</p> <p>【読】「音」を追いかけよう ・【読】構成や展開「英顔と心」の魔法 ・【言】言葉の単位</p> <p>【読】「音」を追いかけよう ・【読】構成や展開「英顔と心」の魔法 ・【言】言葉の単位</p> <p>【読】「音」を追いかけよう ・【読】構成や展開「英顔と心」の魔法 ・【言】言葉の単位</p> <p>【読】「音」を追いかけよう ・【読】構成や展開「英顔と心」の魔法 ・【言】言葉の単位</p>	<p>【読】「音」を追いかけよう ・【読】構成や展開「英顔と心」の魔法 ・【言】言葉の単位</p> <p>【読】「音」を追いかけよう ・【読】構成や展開「英顔と心」の魔法 ・【言】言葉の単位</p> <p>【読】「音」を追いかけよう ・【読】構成や展開「英顔と心」の魔法 ・【言】言葉の単位</p> <p>【読】「音」を追いかけよう ・【読】構成や展開「英顔と心」の魔法 ・【言】言葉の単位</p>	<p>【読】「音」を追いかけよう ・【読】構成や展開「英顔と心」の魔法 ・【言】言葉の単位</p> <p>【読】「音」を追いかけよう ・【読】構成や展開「英顔と心」の魔法 ・【言】言葉の単位</p> <p>【読】「音」を追いかけよう ・【読】構成や展開「英顔と心」の魔法 ・【言】言葉の単位</p> <p>【読】「音」を追いかけよう ・【読】構成や展開「英顔と心」の魔法 ・【言】言葉の単位</p>
<p>社会</p> <p>第2章 古代までの日本 第1節 世界の文明のおこり</p> <p>日本の国家形成</p> <p>2・3年美術</p> <p>体系表 A1②STEP3 花の形に秘められたふしぎ</p>	<p>第2章 国家の柱石の整備 天皇・貴族の政治</p> <p>体系表 A1②STEP3 花の形に秘められたふしぎ</p>	<p>第3章 国際的な要素を持った文化、文化の国際化</p> <p>体系表 B1STEP3 方程式 (タブレット等) B1STEP4 方程式 (タブレット)</p>
<p>数学</p> <p>第2章 文字と式 1 文字を使った式 2 文字式の計算 3 文字式の利用</p> <p>体系表 A2①STEP3 水溶液の性質</p>	<p>第3章 方程式 1 方程式とその解き方</p>	<p>第2章 1次方程式の利用</p> <p>体系表 B1STEP3 方程式 (タブレット等) B1STEP4 方程式 (タブレット)</p>
<p>理科</p> <p>第3章 水溶液の性質 1 物質が水に溶ける様子 2 物質が水に溶ける様子 3 物質が水に溶ける様子 4 物質が水に溶ける様子</p> <p>体系表 A2①STEP3 水溶液の性質</p>	<p>第4章 物質の状態変化 1 物質の状態変化</p>	<p>第2章 花のつくりとはたらき</p> <p>体系表 B1STEP3 方程式 (タブレット等) B1STEP4 方程式 (タブレット)</p>
<p>英語</p> <p>L2. Task & 英語のしくみ Reading Tips1</p> <p>2年数学</p>	<p>L3. Task & 英語のしくみ Reading Tips2</p> <p>2年理科</p>	<p>L4. Task & 英語のしくみ Reading Tips3</p>
<p>音楽</p> <p>【Repeat of Music】</p> <p>AI①・夢の世界を、他</p>	<p>【曲想を生かして】</p> <p>AI①・夢の世界を、他</p> <p>体系表 A1①STEP3 Writing tips1 (PC、タブレット) C1①STEP3 Project1 (電子辞書)</p>	<p>【詩と音楽】</p> <p>AI①・魔王 BI② C2①</p>
<p>美術</p> <p>自分の活動所(表現)</p>	<p>対比する2枚(鑑賞・表現)</p>	<p>季節を映はろ(表現)</p>
<p>保健</p> <p>C 陸上競技 「短距離走・リレー」</p> <p>○ 保健</p>	<p>C 陸上競技 「短距離走・リレー」 「走幅跳び」</p> <p>○ 保健</p>	<p>C 陸上競技「走り幅跳び」</p> <p>○ 保健</p>
<p>技芸</p> <p>○自己評価 ○マルチラックの構想</p>	<p>○マルチラックの部品取り ○マルチラックの部品加工 ○マルチラックの部品加工</p>	<p>○自己評価 ○マルチラックの構想</p>

9月		10月						
<p>国語</p> <p>【読】(要約)「言葉がつながる」世界遺産」</p> <p>体系表 B1①STEP4 中世の日本 (PC/タブレット)</p> <p>【書】序文などの案内文を書く</p> <p>・【伝】書写</p>	<p>【読】(読)「アフリカ」を題材におよそ1000年の昔を振り返る。</p> <p>国語科</p> <p>話すこと(1)ウ 相手の反応を察知しながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すこと(伝) 1学年 2月 「Project 3 好きなマンガやアニメなどについて執筆しよう」</p> <p>(4)話すこと(発表) イ 日常の場面について、言葉や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。</p>	<p>社会</p> <p>B1① 第2章 中世の日本</p> <p>【社】(1) 中世の日本 (2) 中世の日本を本格的に時代の特徴を多面的・多角的に考察し、整理すること (3) ア作品の特色を生かして、古典の世界に親しむこと</p> <p>第2章 諸産業の発達 都中や農村の自治</p> <p>第3章 世界の諸地域</p>	<p>数学</p> <p>2年国語</p> <p>4章 比例と反比例</p> <p>1 関数</p> <p>A1② 2 比例</p> <p>3 反比例</p> <p>4 比例と反比例の利用</p> <p>算学科</p> <p>イ(イ) 比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること</p> <p>理科 第1学年 6月 「身の周りの物質」</p> <p>ウ(ウ) 物質の融点と沸点、物質の体積が変化すること、その温度の測定を行い、物質の融点や沸点を測いて状態が変化することや物質の量の違いによって物質の分断ができることを見いだすこと</p>	<p>英語</p> <p>Listening Tips</p> <p>Writing Tips 2</p> <p>L5. 中華街に行こう</p> <p>L6. Task & Englishのしくみ</p> <p>A2① B1</p>	<p>音楽</p> <p>【役割を生かして】</p> <p>・カリブ海の旅</p> <p>他</p> <p>【ヴァーニングミュージック】</p> <p>木片の音楽</p> <p>Time for Words 4</p> <p>体系表 A2①STEP3 光の性質 (PC/タブレット)</p>	<p>美術</p> <p>新しい和の模様(表現)</p> <p>A1① B1②</p> <p>○保健</p>	<p>体育</p> <p>B 器械運動「マツト運動」</p> <p>B1②</p> <p>○マルチアングルの組立</p> <p>○仕上げ</p> <p>○自己評価</p> <p>○まとめ</p>	<p>技芸</p> <p>○オリエンテーショ</p> <p>○食の役割と食生活の見直し</p> <p>○栄養を考える</p> <p>○栄養のバランスを考える</p>
<p>3章 根・茎・葉のしくみ</p> <p>4章 葉と日光</p> <p>5章 植物のからだ</p> <p>A2① B1</p>	<p>【光・音・力】</p> <p>理科</p> <p>A(ア) 光の反射・屈折 光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだすこと</p> <p>第1学年 10月</p> <p>イ(イ) 平面・球面・柱面・円錐面などの幾何学的な図形で活用すること</p>	<p>体系表 B1STEP4 世界の様々な地域の調査 (PC/タブレット)</p> <p>体系表 B1STEP4 世界の様々な地域の調査 (PC/タブレット)</p>	<p>体系表 A2①STEP3 光の性質 (PC/タブレット)</p> <p>体系表 B1STEP4 世界の様々な地域の調査 (PC/タブレット)</p>	<p>A2① B1 ①,③ ①,④ ①,②</p> <p>A2① B1 ①,③ ①,④ ①,②</p>	<p>Time for a Skit 1</p> <p>A2① L6. 外国の学校と日本の学校</p> <p>A1 ①,③ B1 ①,③ C2①</p>	<p>海外研修に出かけよう(鑑賞)</p> <p>A2① C1①</p> <p>○保健</p>	<p>○栄養を考える</p> <p>○栄養のバランスを考える</p>	

2月	3月	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保健	技家	2月	3月
<p>・【読】四季の詩</p> <p>・【言】熟語の構成</p> <p>・【語】漢字の広場3漢字の章と題</p> <p>・【読】読書「蜘蛛の糸」</p> <p>・【書】読書記録を書く</p> <p>・【話・聞】アイデアを出して話し合う</p>	<p>C1① 第1章 近世の日本</p> <p>第1節 ヨーロッパ人の来航の背景と</p> <p>彰徳、織田・豊臣の統一事業</p>	<p>C1① 1 資料の分析</p> <p>2 資料の活用</p> <p>3 近似値と有効数字</p>	<p>A2① 2章 地震と大地の変化</p>	<p>Project3</p> <p>表現力を高めよう！</p> <p>A1①・B1①・③④・C1②</p> <p>君を忘れぬ</p> <p>③④・星の光</p>	<p>E 振替「バレーボール」</p>	<p>B1②</p> <p>○調理実習Ⅱの準備</p>	<p>表現力を高めよう！</p> <p>A1①・B1①・③④・C1②</p> <p>君を忘れぬ</p> <p>③④・星の光</p>	<p>しりとりアニメーション(表現・鑑賞)</p> <p>A1②・A2①</p>	<p>E 振替「バレーボール」</p>	<p>B1②</p> <p>○調理実習Ⅱの実施</p> <p>○自分の弁当を考える</p>	<p>2月</p>	<p>3月</p>
<p>・【書】漢字の広場3漢字の章と題</p> <p>・【読】読書「蜘蛛の糸」</p> <p>・【書】読書記録を書く</p> <p>・【話・聞】アイデアを出して話し合う</p>	<p>C1② 第2節 江戸幕府の政治の特色</p>	<p>C1① 1 資料の分析</p> <p>2 資料の活用</p> <p>3 近似値と有効数字</p>	<p>A2① 2章 地震と大地の変化</p>	<p>Project3</p> <p>表現力を高めよう！</p> <p>A1①・B1①・③④・C1②</p> <p>君を忘れぬ</p> <p>③④・星の光</p>	<p>E 振替「バレーボール」</p>	<p>B1②</p> <p>○調理実習Ⅱの準備</p>	<p>表現力を高めよう！</p> <p>A1①・B1①・③④・C1②</p> <p>君を忘れぬ</p> <p>③④・星の光</p>	<p>しりとりアニメーション(表現・鑑賞)</p> <p>A1②・A2①</p>	<p>E 振替「バレーボール」</p>	<p>B1②</p> <p>○調理実習Ⅱの実施</p> <p>○自分の弁当を考える</p>	<p>2月</p>	<p>3月</p>
<p>・【書】漢字の広場3漢字の章と題</p> <p>・【読】読書「蜘蛛の糸」</p> <p>・【書】読書記録を書く</p> <p>・【話・聞】アイデアを出して話し合う</p>	<p>C1② 第2節 江戸幕府の政治の特色</p>	<p>C1① 1 資料の分析</p> <p>2 資料の活用</p> <p>3 近似値と有効数字</p>	<p>A2① 2章 地震と大地の変化</p>	<p>Project3</p> <p>表現力を高めよう！</p> <p>A1①・B1①・③④・C1②</p> <p>君を忘れぬ</p> <p>③④・星の光</p>	<p>E 振替「バレーボール」</p>	<p>B1②</p> <p>○調理実習Ⅱの準備</p>	<p>表現力を高めよう！</p> <p>A1①・B1①・③④・C1②</p> <p>君を忘れぬ</p> <p>③④・星の光</p>	<p>しりとりアニメーション(表現・鑑賞)</p> <p>A1②・A2①</p>	<p>E 振替「バレーボール」</p>	<p>B1②</p> <p>○調理実習Ⅱの実施</p> <p>○自分の弁当を考える</p>	<p>2月</p>	<p>3月</p>

体系表
STEP3
A1①・A2①
Project3
(PC/タブレット)

2年3年
保健体育

体系表
A2①STEP3
資料の分析と整理
(タブレット等)

体系表
STEP3
B1
C1②
アジアにおける日本の魅力
(PC/タブレット)

ア(ウ)音楽表現の共通性
イ(ウ)アジア地域の国民
の音楽の背景と多様性
社会科 1年世界の地理
第2年日本の地理
アジアの地理的特色を大
雑し理解すること
日本の地域別の地域の特
長を把握する学習を通して地
理的認識を深めること
【日本の調べを深めよう】
I
・弊を用いた旗幟制作

A2①
B1
C1
C1②

一年間のまとめ

第2学年 横断的カリキュラム見取り表

	国語		社会		数学		理科		英語		音楽		美術		保健		技家	
4月	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	2年	4月
<p>オリエンテーション</p> <p>・【読】季節をたぐたう</p> <p>・【読】「夏の雑列」</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>・【話】少年の主張in A2①</p> <p>・【言】方言と共通語</p>	<p>第3節 産業や交通の発達</p> <p>第4節 幕府政治の行き詰まり</p> <p>新しい学習・思想</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>1章 式の計算</p> <p>1 式の計算</p>	<p>「動物の世界と生物の変遷」</p> <p>1章 生物の細胞と個体</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>L1. Spring Vacation in Okinawa</p> <p>L1. Task & 英語のしくみ1</p>	<p>【音楽を思い浮かべながら】</p> <p>・春に</p> <p>・夏の日の贈り物</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体育理論</p> <p>A 体づくり運動</p> <p>体育科「体づくり運動」の計画・実施生活に生かす</p> <p>新体力テストなどの測定結果を目的として、データを整理、分析し、そのデータをもとに事前の心付体操などの向心筋運動を目的に行なわれる体づくり運動の組み合わせや、ランニングの組み合わせまで運動の計画を立て、取り組む。</p> <p>イ(ア) 目的に応じてデータを収集し、分析し、そのデータの分析の事前準備を取り、批判的に考察し判断すること。</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>A2①</p> <p>A3②</p> <p>A2①</p> <p>B1①</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	
<p>5月</p> <p>【読】夏の雑列</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>・【読】季節をたぐたう</p> <p>・【読】「夏の雑列」</p>	<p>第2編 日本の様々な地域</p> <p>社会科</p> <p>イ(イ) 我が国の国土の位置・地形を把握し、領土の範囲や変化やその特徴などに基づき、日本の地域構成を大雑把に理解すること</p> <p>【FE】数、身の動き、ア(ウ) 具体的な場面で正の数と負の数を用以て表し、イ(イ) 正の数と負の数を具体的な場面で活用すること</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>2章 文字式の利用</p>	<p>B1</p> <p>①、②、③、④</p> <p>CI</p> <p>①、②</p>	<p>L2. Soccer Robot</p> <p>体系表</p> <p>A2①</p> <p>STEP4</p> <p>鑑賞 (PC)</p>	<p>【モーターと音楽】交響曲 第五番へ短調から音楽科</p> <p>ア(ア) 曲や楽譜にたいする理解を深める。</p> <p>ア(ア) 協和と音楽の構造との関わり</p> <p>音楽科 1年芸術作品の鑑賞を深く、その構造を認識し、自分の考えを表現し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>L2. Task & 英語のしくみ2</p> <p>Time for Words1</p> <p>Conversation Tips1</p> <p>L3. Guide Dogs</p>	<p>体系表</p> <p>STEP4</p> <p>B1</p> <p>連立方程式 (PC/タブレット)</p>	<p>L2. Task & 英語のしくみ2</p> <p>Time for Words1</p> <p>Conversation Tips1</p> <p>L3. Guide Dogs</p>	<p>【作曲家を目指して】～お菓子のCM～</p> <p>A2①</p> <p>B1③</p>	<p>【作曲家を目指して】～お菓子のCM～</p> <p>A2①</p> <p>B1③</p>	<p>体系表</p> <p>STEP4</p> <p>B1</p> <p>連立方程式 (PC/タブレット)</p>	<p>体系表</p> <p>STEP4</p> <p>B1</p> <p>連立方程式 (PC/タブレット)</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	
<p>5月</p> <p>【言】活用のない自立語</p> <p>【言】漢字の広場1</p> <p>【書】新聞投書記事を書く</p> <p>【読】蘭筆の味わい「杖草子」徒然草</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>・【話】少年の主張in A2①</p> <p>・【言】方言と共通語</p>	<p>第1章 日本の地域構成</p> <p>第2章 世界と比べた日本の地域的特色</p> <p>第1節 自然環境</p>	<p>2章 連立方程式</p> <p>数学科</p> <p>イ(イ) 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用すること</p> <p>理科 第1学年 6月「身のまわりの物質」</p> <p>イ(イ) 水溶液(ア) 物質の溶解 物質が水に溶ける様子を観察を行い、水溶液の中では溶質が均一に分散していることを思いだすこと</p>	<p>B1②</p>	<p>【言語】活用のない自立語</p> <p>【言語】漢字の広場1</p> <p>【書】新聞投書記事を書く</p> <p>【読】蘭筆の味わい「杖草子」徒然草</p>	<p>【モーターと音楽】交響曲 第五番へ短調から音楽科</p> <p>ア(ア) 曲や楽譜にたいする理解を深める。</p> <p>ア(ア) 協和と音楽の構造との関わり</p> <p>音楽科 1年芸術作品の鑑賞を深く、その構造を認識し、自分の考えを表現し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p> <p>体づくりに関する計画</p>	

6月	7月	8月	9月	10月	
<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【(語)話し言葉と書き言葉】 ・【(語)ワカ】 ・【(伝)書写】 ・【(語)近代の短歌】 	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【(語)近代の短歌】 ・【(語)アイアの知性】 ・【(言)漢字の広域2】 ・【(書)写真から物語創作する】 	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【(語)平安物語・論語】 ・【(伝)書写】 	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【(語)平安物語・論語】 ・【(伝)書写】 ・【(語)日本の花火の楽しみ】 	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【(語)メディア・物語を讀み解く】 	
<p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> AI② 第2節 人口 第3節 資源・エネルギーと産業 	<p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> AI② 第2節 人口 第3節 資源・エネルギーと産業 	<p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> A3④ 第5章 近代の日本と世界 第1節 欧米諸国の近代化とアジア進出 	<p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ 第2節 開国と明治維新 第3節 立憲君主国の成立、国際的地位の向上 第4節 近代産業の発展、近代文化の形成 第3編 日本と世界 第1節 自然環境を中核とした考察 	<p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ C② 第1節 自然環境を中核とした考察 第2分野 第2分野 第2分野 第2分野 第2分野 第3分野 第3分野 第3分野 第3分野 第3分野 第4分野 第4分野 第4分野 第4分野 第4分野 第5分野 第5分野 第5分野 第5分野 第5分野 第6分野 第6分野 第6分野 第6分野 第6分野 第7分野 第7分野 第7分野 第7分野 第7分野 第8分野 第8分野 第8分野 第8分野 第8分野 第9分野 第9分野 第9分野 第9分野 第9分野 第10分野 第10分野 第10分野 第10分野 第10分野 第11分野 第11分野 第11分野 第11分野 第11分野 第12分野 第12分野 第12分野 第12分野 第12分野 第13分野 第13分野 第13分野 第13分野 第13分野 第14分野 第14分野 第14分野 第14分野 第14分野 第15分野 第15分野 第15分野 第15分野 第15分野 第16分野 第16分野 第16分野 第16分野 第16分野 第17分野 第17分野 第17分野 第17分野 第17分野 第18分野 第18分野 第18分野 第18分野 第18分野 第19分野 第19分野 第19分野 第19分野 第19分野 第20分野 第20分野 第20分野 第20分野 第20分野 	<p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ C② 第1節 自然環境を中核とした考察 第2分野 第2分野 第2分野 第2分野 第2分野 第3分野 第3分野 第3分野 第3分野 第3分野 第4分野 第4分野 第4分野 第4分野 第4分野 第5分野 第5分野 第5分野 第5分野 第5分野 第6分野 第6分野 第6分野 第6分野 第6分野 第7分野 第7分野 第7分野 第7分野 第7分野 第8分野 第8分野 第8分野 第8分野 第8分野 第9分野 第9分野 第9分野 第9分野 第9分野 第10分野 第10分野 第10分野 第10分野 第10分野 第11分野 第11分野 第11分野 第11分野 第11分野 第12分野 第12分野 第12分野 第12分野 第12分野 第13分野 第13分野 第13分野 第13分野 第13分野 第14分野 第14分野 第14分野 第14分野 第14分野 第15分野 第15分野 第15分野 第15分野 第15分野 第16分野 第16分野 第16分野 第16分野 第16分野 第17分野 第17分野 第17分野 第17分野 第17分野 第18分野 第18分野 第18分野 第18分野 第18分野 第19分野 第19分野 第19分野 第19分野 第19分野 第20分野 第20分野 第20分野 第20分野 第20分野
<p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> BI① 1. 連立方程式とその解き方 2. 連立方程式の利用 3章 1次関数 	<p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> A3④ 1. 1次関数 2. 1次関数と方程式 3. 1次関数の利用 	<p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> A3④ 1. 1次関数 2. 1次関数と方程式 3. 1次関数の利用 	<p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ 4章 平行と合同 1. 説明のしくみ 2. 平行線と角 3. 合同な図形 	<p>数学</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ 4章 平行と合同 1. 説明のしくみ 2. 平行線と角 3. 合同な図形 	
<p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI 3章 動物の生命維持のしくみ 4章 動物のなかま 5章 生物の変遷 	<p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI 3章 動物の生命維持のしくみ 4章 動物のなかま 5章 生物の変遷 	<p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI 3章 動物の生命維持のしくみ 4章 動物のなかま 5章 生物の変遷 	<p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI 3章 動物の生命維持のしくみ 4章 動物のなかま 5章 生物の変遷 	<p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI 3章 動物の生命維持のしくみ 4章 動物のなかま 5章 生物の変遷 	
<p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI C① L3. Task & 英語のしくみ3 Project1 Reading Lesson1 Short Funny Stories conversation Tips2 Listening Tips1 L4. Ms King's Trip with Her Friend 	<p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI C① L3. Task & 英語のしくみ3 Project1 Reading Lesson1 Short Funny Stories conversation Tips2 Listening Tips1 L4. Ms King's Trip with Her Friend 	<p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI C① L3. Task & 英語のしくみ3 Project1 Reading Lesson1 Short Funny Stories conversation Tips2 Listening Tips1 L4. Ms King's Trip with Her Friend 	<p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI C① L3. Task & 英語のしくみ3 Project1 Reading Lesson1 Short Funny Stories conversation Tips2 Listening Tips1 L4. Ms King's Trip with Her Friend 	<p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI C① L3. Task & 英語のしくみ3 Project1 Reading Lesson1 Short Funny Stories conversation Tips2 Listening Tips1 L4. Ms King's Trip with Her Friend 	
<p>音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI C① 【校制を生かしてII】表・奏に他 ・ラヴァース・コンチャルト 他 	<p>音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI C① 【発見！日本の魅力II～郷土の芸能へ～】 他 ・長崎くんち 	<p>音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI C① 【発見！日本の魅力II～郷土の芸能へ～】 他 ・長崎くんち 	<p>音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI C① 【心をひとつに】 ・自由曲 他 	<p>音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI C① 【ジャンル&レスポンス】 ・ブルース音階による即興演奏 	
<p>美術</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI C① メッセージを持ち歩こう(表現) 	<p>美術</p> <ul style="list-style-type: none"> A1① C① ファインダーを覗いて(表現) 	<p>美術</p> <ul style="list-style-type: none"> A2④ BI C① 一歩を踏み出す靴(表現・鑑賞) 	<p>美術</p> <ul style="list-style-type: none"> B1 C② 動きをコマで(鑑賞・表現) 	<p>美術</p> <ul style="list-style-type: none"> B1 C② 動きをコマで(鑑賞・表現) 	
<p>体育</p> <ul style="list-style-type: none"> G ダンズ(Hip Hop) 	<p>体育</p> <ul style="list-style-type: none"> E 球技(テニス・バレー) 	<p>体育</p> <ul style="list-style-type: none"> E 球技(テニス・バレー) 	<p>体育</p> <ul style="list-style-type: none"> E 球技(テニス・バレー) C 陸上競技「走り高跳び」 	<p>体育</p> <ul style="list-style-type: none"> E 球技(テニス・バレー) C 陸上競技「走り高跳び」 	
<p>技芸</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オリジナル名刺の製作 ○エクセルの基本操作 ○エクセルの応用操作 	<p>技芸</p> <ul style="list-style-type: none"> ○インターネットの構成 ○マルチメディアの世界 	<p>技芸</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オリジナル名刺の製作 ○家族とわたし ○成長の過程 ○幼児の遊びと発達する能力 	<p>技芸</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児の遊びを体験する ○おもちゃづくり(挑戦) ○マルチメディアを利用したおもちゃ 	<p>技芸</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マルチメディアを利用したおもちゃ 	

1年社会

3年理科

体系表 A3① STEP3 世界と比べた日本の地域的特色 (地域間の結びつき) (PC/タブレット)

体系表 A3① STEP3 自然条件の原立条件、地質の広がりや地帯内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこに至る経路と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察すること

1月	2月	3月							
<p>国語</p> <p>・【書】四コマ漫画からの意見文を書く</p> <p>・【書】活用のある自立語</p> <p>・【読】読書「坊っちゃん」</p> <p>・【言】漢字の広場2</p> <p>・【話・聞】話を聞いて自分の考えと比べる</p> <p>・【語・聞】話を聞いて自分の考えと比べる</p> <p>・【言】付属語</p>	<p>社会</p> <p>A2① 第6節 他地域との結びつきを中心とした考察</p> <p>第7節 生活・文化を中心とした考察</p> <p>社会科 日本の暮らし 日本の個性・地域性 日本を伝える時習を通して地理的関係を学ぶこと 社会科 第1学年 3月 【日本の国語】 ア(ウ)音楽表現の共通性や固有性 イ(ウ)アジア地域の国民性の音楽の特性と多様性</p> <p>1年数学</p> <p>6章 確率</p> <p>1年音楽</p> <p>1 確率</p>	<p>理科</p> <p>A2① B1</p> <p>1章 静電気と電流</p> <p>2章 電流と電圧</p> <p>理科 ア 電流 (ア) 回路と電流・電圧や電圧を測定する実験を行い、回路の各高を流れる電流や各部に加わる電圧についての特徴性を思い出すこと (イ) 電流・電圧と抵抗並列回路に加わる電圧と電流を測定する実験を行い、電圧と電流の関係を読み出すことにも留意し、電圧と電流の関係を思い出すこと 社会科 第1学年 7月「方眼紙」 一元二次方程式を具体的な場面で活用すること</p> <p>2章 電流と電圧</p> <p>3章 電流と磁界</p>	<p>英語</p> <p>A2① B1</p> <p>L8. Water Problems L8. Task & 英語のしくみ7</p> <p>A2① B1</p> <p>Project3 Reading Lesson2 The Gift of Izakia Osamu</p> <p>Optional Reading1 Six amazing Things about Penguins</p> <p>Optional Reading2 Jimmy Valentine 一年間のまとめ</p>	<p>音楽</p> <p>A2① B1</p> <p>【日本の調べを味わってII】 A2① B1 C1 ①,②</p> <p>・箏を用いた旋律創作</p>	<p>美術</p> <p>A2① B1 ②,③</p> <p>花を贈る(表現)</p>	<p>芸術</p> <p>A2① B1 ①,②,③</p> <p>光を美しく透かすランプ シェード(表現)</p>	<p>保体</p> <p>E 球技「バスケットボール」 B1② F 武道「柔道」 B1② ②,③ ○ 保健</p>	<p>技術</p> <p>B1②</p> <p>○消費生活の流れ ○オリエンテーション ○賢い消費者とは</p>	<p>1月</p>
<p>国語</p> <p>・【書】漢字の広場2</p> <p>・【話・聞】話を聞いて自分の考えと比べる</p> <p>・【語・聞】話を聞いて自分の考えと比べる</p> <p>・【言】付属語</p>	<p>社会</p> <p>B1① 第4編 身近な地域の調査</p>	<p>理科</p> <p>A2① B1</p> <p>1章 静電気と電流</p> <p>2章 電流と電圧</p> <p>3章 電流と磁界</p>	<p>英語</p> <p>A2① B1</p> <p>Project3 Reading Lesson2 The Gift of Izakia Osamu</p> <p>Optional Reading1 Six amazing Things about Penguins</p> <p>Optional Reading2 Jimmy Valentine 一年間のまとめ</p>	<p>音楽</p> <p>A2① B1 C1 ①,②</p> <p>【日本の調べを味わってII】 A2① B1 C1 ①,②</p> <p>・箏を用いた旋律創作</p>	<p>美術</p> <p>B1 ①,②,③</p> <p>光を美しく透かすランプ シェード(表現)</p>	<p>保体</p> <p>F 武道「柔道」 B1② ○ 保健</p>	<p>技術</p> <p>B1②</p> <p>○消費生活の流れ ○消費者エンレション ○消費者トラブル</p>	<p>2月</p>	
<p>国語</p> <p>・【書】漢字の広場2</p> <p>・【話・聞】話を聞いて自分の考えと比べる</p> <p>・【語・聞】話を聞いて自分の考えと比べる</p> <p>・【言】付属語</p>	<p>社会</p> <p>B1① 第4編 身近な地域の調査</p>	<p>理科</p> <p>A2① B1</p> <p>1章 静電気と電流</p> <p>2章 電流と電圧</p> <p>3章 電流と磁界</p>	<p>英語</p> <p>A2① B1</p> <p>Project3 Reading Lesson2 The Gift of Izakia Osamu</p> <p>Optional Reading1 Six amazing Things about Penguins</p> <p>Optional Reading2 Jimmy Valentine 一年間のまとめ</p>	<p>音楽</p> <p>A2① B1 C1 ①,②</p> <p>【日本の調べを味わってII】 A2① B1 C1 ①,②</p> <p>・箏を用いた旋律創作</p>	<p>美術</p> <p>B1 ①,②,③</p> <p>光を美しく透かすランプ シェード(表現)</p>	<p>保体</p> <p>F 武道「柔道」 B1② ○ 保健</p>	<p>技術</p> <p>B1②</p> <p>○消費生活の流れ ○消費者エンレション ○消費者トラブル</p>	<p>3月</p>	

10月	11月
<p>・話すこと、考えること</p> <p>体系表 B1 STEP3 ディベートをしよう (PC/タブレット)</p>	<p>・「言」文の組み立て</p>
<p>・【言】文の組み立て</p>	<p>・我が国は大ではない</p> <p>・文法的に考える</p> <p>・漢字の広場2</p>
<p>第1節 民主主義を支える憲法</p> <p>第2節 憲法が保障する基本的人權</p> <p>第3節 わたしたちの平和主義</p>	<p>第3章 エネルギーと仕事</p> <p>イ 力学的エネルギー(ア)仕事とエネルギー 仕事と仕事について理解すること。また、電気の発熱を伴う、物体のもつエネルギーの量は物体が他の物体に与える仕事で測れることを理解すること。</p> <p>【課題】第2学年 8月「関数y=ax²」(イ) 関数y=ax²を用いて具体的な算数を考え、等式を整理すること。保健体育科 第2学年 1月「公道 柔道」</p> <p>エネルギーの資源と利用</p> <p>ア エネルギーと物質</p> <p>(ア) エネルギーとエネルギー変換</p> <p>様々なエネルギーとその変換に関する知識、実験的なを通して、日常生活や社会では様々なエネルギーを無駄に利用していることを思いだして理解すること。また、人間は、水、火、風、太陽光、食物などからエネルギーを得ていることを考えよ。また、エネルギー変換の有用性が、産業の発展に利用が本質であることを理解すること。</p> <p>特筆点 (1) ア電気、運動、熱の特性等の原理、規則とエネルギー変換や伝導物に関する基礎的な技術の仕組み及び保守点検の必要性について理解すること</p> <p>9 1章 エネルギーの移り変わり</p> <p>1章 エネルギーの移り変わり</p> <p>2章 エネルギー資源とその利用</p> <p>「地球と宇宙」</p> <p>A2① B1</p> <p>1章 天体の1日の動き</p> <p>2章 天体の1年の動き</p>
<p>1 相似な図形</p> <p>2 平行線と比</p> <p>3 相似な図形の面積と体積</p>	<p>L5. Athletics and Languages</p> <p>2章 エネルギー資源とその利用</p> <p>「地球と宇宙」</p> <p>A2① B1</p> <p>1章 天体の1日の動き</p> <p>2章 天体の1年の動き</p> <p>Listening Tips</p> <p>L6. Why do You Have to Work?</p>
<p>英語</p> <p>A2① Time for Words 3 B1</p> <p>体系表 A2①、B1 STEP3 エネルギーと仕事 (PC/タブレット)</p> <p>Reading Tips 2</p>	<p>【整理力を高める】 ・花の街 他</p> <p>音楽</p> <p>A2 B1 C2①</p> <p>【音楽の約束】 ・著作権について [art of music] アイーダ 劇団四季</p> <p>A1① A2① B1① C2①</p> <p>【耳をすませば】 A1① A2① B1 C1①</p>
<p>音楽</p> <p>【整理力を高める】 ・花の街 他</p>	<p>美術</p> <p>Av② 美しい世界へご招待(鑑賞・表現)</p> <p>remake restyle (表現・鑑賞)</p>
<p>美術</p> <p>remake restyle (表現・鑑賞)</p>	<p>体育</p> <p>B 器械運動 「シンクロフットボール」 E 球技「バレーボール」 O 保健</p> <p>E 球技「バレーボール」 B1② C1②</p>
<p>体育</p> <p>B 器械運動 「シンクロフットボール」 E 球技「バレーボール」 O 保健</p>	<p>技家</p> <p>○ 保健</p> <p>○ 鑑賞プログラムの製作</p> <p>○ 鑑賞プログラムの製作</p> <p>○ 電気の安全な利用</p>

国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保健	技者
<p>・【読】読書-最後の一句 ・【書】自己PR文を鑑み合う</p>	<p>B1① A2①</p>	<p>7章 三平方の定理</p>	<p>3章 太陽と月 4章 太陽系と宇宙の広がり</p>	<p>英語科 [Lesson 6 Why do You Have to Work?] (4) 話すこと【発表】ウ 社長的な話題に關して聞 いたり読んだりしたこと について、考えたこと、や 感じたこと、その理由など を、簡単な語句や文を用 いて話すことができるよう にする。 国語科 第3学年4月 少年の王様 in 附中 必要に応じて既習したリ 習したりしながら語の内 容を読み、英語科や相違 点を探し出し、自分の考 えをまとめること。</p>	<p>音楽科 ・カントリーロード 体系表 A1① STEP3 Lesson 5・6 (PC/タブレット) A1① STEP4 Lesson5, 6 (PC/タブレット)</p>	<p>自分の時間結晶のかたち 【表現】</p>	<p>○ 保健</p>	<p>○ 住まいとその働き</p>
<p>12月</p>	<p>第2節 財政と政府の役割</p>	<p>1 三平方の定理 2 三平方の定理の利用</p>	<p>「自然と人間」</p>	<p>英語科 [Lesson 6 Why do You Have to Work?] (3) 話すこと【やり取り】ウ 社長的な話題に關して聞 いたり読んだりしたこと について、考えたこと、や 感じたこと、その理由など を、簡単な語句や文を用 いて述べることができるよ うにする。 国語科 第3学年9月 王様を助けて述べる。 国語科 (1) 話しことば 読書や聞かされた内容を 話し合い、互いの意見を 付け付けて考えをまとめる こと。</p>	<p>A1① ・「和声」は楽し 他</p>	<p>BI ①、 ②、 ③ ○ 保健</p>	<p>BI② ○ 健康に、安全にすむため ○ 自分の部屋をコーディネートしよう</p>	<p>12月</p>
<p>1月</p>	<p>第2節 国際社会が抱える課題</p>	<p>1 標準調査 2 標準調査の利用</p>	<p>1章 生物と環境 2章 人間と環境</p>	<p>英語科 Project 2 Time for a Skit 4 Reading, Lesson2 My Hope for the Future 評議について、いっしょに学 ぼう。</p>	<p>A2① BI ①、 ②、 ③、 ④ C1② C1③</p> <p>【発見！日本の魅力Ⅲ】 ・歴史・文化・地理・文豪 資料 ア(ウ) 音楽表現の共通性 や固有性 イ(ウ) 音が個々の伝統音楽 の特性から生まれる音楽 の多様性 社会1年 第3, 4章 中世・近代の日本の文化 の特色を多面的・多角的に 考察し整理すること 音楽科 2年 練習簿の世界 イ(ウ) 日本の美術作品か ら伝承や文化のよさや美し さを感じ取る 国語科 自由研究として 調査を明確にしながら、自 分の考えが伝わる文章に なるように工夫する</p>	<p>BI ①、 ②、 ③ ○ 健康に、安全にすむため ○ 自分の部屋をコーディネートしよう</p>	<p>BI② ○ 健康に、安全にすむため ○ 自分の部屋をコーディネートしよう</p>	<p>1月</p>

2年社会

体系表
A2①STEP3
歴史は変わった過去
か(PC/タブレット)

2月	3月
<p>国語</p> <p>・【読】読み比べ、批評する文化としての科学技術</p> <p>A2① 第3節 持続可能な社会の実現に向けて</p>	<p>社会</p> <p>○3年間の総復習</p>
<p>数学</p> <p>○3年間の総復習</p> <p>2年社会</p>	<p>理科</p> <p>3章 自然の恵みと災害</p> <p>理3 (2) 自然の恵みと気象災害 気象現象がもたらす恵みと気象災害について調べ、これらは天気の変化や日本の気象と関連付けて理解すること。第2学年10月「日本の領土」 (3) 日本の領土 自然条件の成り立ちや地域内の地帯の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる問題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察すること。</p> <p>1 科学・技術の発展と環境の保全</p> <p>1章 科学・技術の発展</p> <p>2章 科学・技術の利用と環境の保全</p>
<p>英語</p> <p>C1①</p> <p>Optional reading 1 Someone Optional reading 2 Giant Optional reading 3 Free The Children</p> <p>体系表 C1① STEP3 自然の恵みと災害 (PC/タブレット)</p>	<p>音楽</p> <p>【記憶に残る音楽を】</p> <p>・旅立ちの日に 他</p>
<p>美術</p> <p>記憶に残したい風景と言葉 (鑑賞・表現)</p> <p>A1① B1②</p>	<p>保健</p> <p>E 球技「バドミントンボール」 B1②</p> <p>○自分の部屋を管理しよう</p>
<p>2月</p>	<p>3月</p> <p>○まとめ</p> <p>Optional reading 4 John Mung 3年間のまとめ</p>

情報活用能力育成の体系表フォーム(中学校用)

分類	ステップ3			ステップ4			活用するICT	単元	活用するICT	学習段階	単元	活用するICT	学習段階
	具体的項目	単元	活用するICT	具体的項目	単元	活用するICT							
1 情報と情報技術の活用に関する基礎知識	①情報技術に関する技能 ・キーボードなどによる文字の正確な入力 ・電子ファイルのフォルダ管理 ・目的に応じてアプリケーションの選択と操作 ・簡単な情報の送受信やAND、ORなどの論理演算子を用いた検索 ・情報の特徴 ・情報と情報技術の特性の理解	1 英語 Writing Tips1 かんたんな通信文	PC/タブレット	3 英語 Writing Tips1・2 メールの書き方	PC/タブレット	3 英語 Writing Tips1・2 メールの書き方	PC/タブレット	3 英語 Writing Tips1・2 メールの書き方	3 英語 Writing Tips1・2 メールの書き方	3 英語 Writing Tips1・2 メールの書き方	3 英語 Writing Tips1・2 メールの書き方	3 英語 Writing Tips1・2 メールの書き方	3 英語 Writing Tips1・2 メールの書き方
		2 英語 Lesson8・9	PC	2 英語 Lesson8・9	PC	2 英語 Lesson8・9	PC	2 英語 Lesson8・9	2 英語 Lesson8・9	2 英語 Lesson8・9	2 英語 Lesson8・9	2 英語 Lesson8・9	2 英語 Lesson8・9
		1 英語 Lesson1	PC/タブレット	1 英語 Lesson1	PC/タブレット	1 英語 Lesson1	PC/タブレット	1 英語 Lesson1	1 英語 Lesson1	1 英語 Lesson1	1 英語 Lesson1	1 英語 Lesson1	1 英語 Lesson1
		2 英語 Lesson2	PC	2 英語 Lesson2	PC	2 英語 Lesson2	PC	2 英語 Lesson2	2 英語 Lesson2	2 英語 Lesson2	2 英語 Lesson2	2 英語 Lesson2	2 英語 Lesson2
		3 英語 Lesson3	PC/タブレット	3 英語 Lesson3	PC/タブレット	3 英語 Lesson3	PC/タブレット	3 英語 Lesson3	3 英語 Lesson3	3 英語 Lesson3	3 英語 Lesson3	3 英語 Lesson3	3 英語 Lesson3
		1 英語 Lesson4・5	PC/タブレット	1 英語 Lesson4・5	PC/タブレット	1 英語 Lesson4・5	PC/タブレット	1 英語 Lesson4・5	1 英語 Lesson4・5	1 英語 Lesson4・5	1 英語 Lesson4・5	1 英語 Lesson4・5	1 英語 Lesson4・5
		2 英語 Lesson6	PC	2 英語 Lesson6	PC	2 英語 Lesson6	PC	2 英語 Lesson6	2 英語 Lesson6	2 英語 Lesson6	2 英語 Lesson6	2 英語 Lesson6	2 英語 Lesson6
		3 英語 Lesson7	PC/タブレット	3 英語 Lesson7	PC/タブレット	3 英語 Lesson7	PC/タブレット	3 英語 Lesson7	3 英語 Lesson7	3 英語 Lesson7	3 英語 Lesson7	3 英語 Lesson7	3 英語 Lesson7
		1 英語 Lesson8	PC	1 英語 Lesson8	PC	1 英語 Lesson8	PC	1 英語 Lesson8	1 英語 Lesson8	1 英語 Lesson8	1 英語 Lesson8	1 英語 Lesson8	1 英語 Lesson8
		2 英語 Lesson9・6	PC	2 英語 Lesson9・6	PC	2 英語 Lesson9・6	PC	2 英語 Lesson9・6	2 英語 Lesson9・6	2 英語 Lesson9・6	2 英語 Lesson9・6	2 英語 Lesson9・6	2 英語 Lesson9・6
2 情報と情報技術の活用に関する応用知識	②記号の組み合わせの理解 ・問題発見、解決のための安全、適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等 ・プログラムの修正 ・プログラムの実行 ・プログラムの実行方法	2 英語 Lesson9・6	PC	2 英語 Lesson9・6	PC	2 英語 Lesson9・6	PC	2 英語 Lesson9・6	2 英語 Lesson9・6	2 英語 Lesson9・6	2 英語 Lesson9・6	2 英語 Lesson9・6	2 英語 Lesson9・6
		1 英語 Lesson10	PC	1 英語 Lesson10	PC	1 英語 Lesson10	PC	1 英語 Lesson10	1 英語 Lesson10	1 英語 Lesson10	1 英語 Lesson10	1 英語 Lesson10	1 英語 Lesson10
		2 英語 Lesson11	PC	2 英語 Lesson11	PC	2 英語 Lesson11	PC	2 英語 Lesson11	2 英語 Lesson11	2 英語 Lesson11	2 英語 Lesson11	2 英語 Lesson11	2 英語 Lesson11
		3 英語 Lesson12	PC	3 英語 Lesson12	PC	3 英語 Lesson12	PC	3 英語 Lesson12	3 英語 Lesson12	3 英語 Lesson12	3 英語 Lesson12	3 英語 Lesson12	3 英語 Lesson12
		1 英語 Lesson13	PC	1 英語 Lesson13	PC	1 英語 Lesson13	PC	1 英語 Lesson13	1 英語 Lesson13	1 英語 Lesson13	1 英語 Lesson13	1 英語 Lesson13	1 英語 Lesson13
		2 英語 Lesson14	PC	2 英語 Lesson14	PC	2 英語 Lesson14	PC	2 英語 Lesson14	2 英語 Lesson14	2 英語 Lesson14	2 英語 Lesson14	2 英語 Lesson14	2 英語 Lesson14
		3 英語 Lesson15	PC	3 英語 Lesson15	PC	3 英語 Lesson15	PC	3 英語 Lesson15	3 英語 Lesson15	3 英語 Lesson15	3 英語 Lesson15	3 英語 Lesson15	3 英語 Lesson15
		1 英語 Lesson16	PC	1 英語 Lesson16	PC	1 英語 Lesson16	PC	1 英語 Lesson16	1 英語 Lesson16	1 英語 Lesson16	1 英語 Lesson16	1 英語 Lesson16	1 英語 Lesson16
		2 英語 Lesson17	PC	2 英語 Lesson17	PC	2 英語 Lesson17	PC	2 英語 Lesson17	2 英語 Lesson17	2 英語 Lesson17	2 英語 Lesson17	2 英語 Lesson17	2 英語 Lesson17
		3 英語 Lesson18	PC	3 英語 Lesson18	PC	3 英語 Lesson18	PC	3 英語 Lesson18	3 英語 Lesson18	3 英語 Lesson18	3 英語 Lesson18	3 英語 Lesson18	3 英語 Lesson18
3 情報と情報技術の活用に関する高度知識	③記号の組み合わせの理解 ・問題発見、解決のための安全、適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等 ・プログラムの修正 ・プログラムの実行 ・プログラムの実行方法	3 英語 Lesson19	PC	3 英語 Lesson19	PC	3 英語 Lesson19	PC	3 英語 Lesson19	3 英語 Lesson19	3 英語 Lesson19	3 英語 Lesson19	3 英語 Lesson19	3 英語 Lesson19
		1 英語 Lesson20	PC	1 英語 Lesson20	PC	1 英語 Lesson20	PC	1 英語 Lesson20	1 英語 Lesson20	1 英語 Lesson20	1 英語 Lesson20	1 英語 Lesson20	1 英語 Lesson20
		2 英語 Lesson21	PC	2 英語 Lesson21	PC	2 英語 Lesson21	PC	2 英語 Lesson21	2 英語 Lesson21	2 英語 Lesson21	2 英語 Lesson21	2 英語 Lesson21	2 英語 Lesson21
		3 英語 Lesson22	PC	3 英語 Lesson22	PC	3 英語 Lesson22	PC	3 英語 Lesson22	3 英語 Lesson22	3 英語 Lesson22	3 英語 Lesson22	3 英語 Lesson22	3 英語 Lesson22
		1 英語 Lesson23	PC	1 英語 Lesson23	PC	1 英語 Lesson23	PC	1 英語 Lesson23	1 英語 Lesson23	1 英語 Lesson23	1 英語 Lesson23	1 英語 Lesson23	1 英語 Lesson23
		2 英語 Lesson24	PC	2 英語 Lesson24	PC	2 英語 Lesson24	PC	2 英語 Lesson24	2 英語 Lesson24	2 英語 Lesson24	2 英語 Lesson24	2 英語 Lesson24	2 英語 Lesson24
		3 英語 Lesson25	PC	3 英語 Lesson25	PC	3 英語 Lesson25	PC	3 英語 Lesson25	3 英語 Lesson25	3 英語 Lesson25	3 英語 Lesson25	3 英語 Lesson25	3 英語 Lesson25
		1 英語 Lesson26	PC	1 英語 Lesson26	PC	1 英語 Lesson26	PC	1 英語 Lesson26	1 英語 Lesson26	1 英語 Lesson26	1 英語 Lesson26	1 英語 Lesson26	1 英語 Lesson26
		2 英語 Lesson27	PC	2 英語 Lesson27	PC	2 英語 Lesson27	PC	2 英語 Lesson27	2 英語 Lesson27	2 英語 Lesson27	2 英語 Lesson27	2 英語 Lesson27	2 英語 Lesson27
		3 英語 Lesson28	PC	3 英語 Lesson28	PC	3 英語 Lesson28	PC	3 英語 Lesson28	3 英語 Lesson28	3 英語 Lesson28	3 英語 Lesson28	3 英語 Lesson28	3 英語 Lesson28

プログラミング
基本的な操作等

分類	ステップ3			ステップ4			実施する単元	
	学年	教科等	単元	学年	教科等	単元		
<p>①情報収集、整理、分析、表紙、判題の理解</p> <p>②課題解決、探究における情報活用の方法の理解</p>	<p>具体的な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査や実験・観察等による情報の収集の方法 		<p>活用するICT</p> <p>PC/タブレット ICレコーダー</p>		<p>具体的な項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査や実験・観察等による情報の収集の方法 		<p>活用するICT</p> <p>PC/タブレット</p>	
	3	国語	少作の中世中	国語	少作の中世中	3	国語	少作の中世中
	3	保健	食生活と健康	保健	食生活と健康	3	保健	食生活と健康
	3	保健	生活習慣病とその予防	保健	生活習慣病とその予防	3	保健	生活習慣病とその予防
	3	数学	確率	数学	資料の分析と整理	3	数学	資料の分析と整理
	3	理科	植物のなかま	理科	植物のなかま	3	理科	植物のなかま
	3	理科	化学変化とイオン	理科	化学変化とイオン	3	理科	化学変化とイオン
	3	理科	出雲や山による気象	理科	出雲や山による気象	3	理科	出雲や山による気象
	3	英語	オリエントーション	英語	オリエントーション	3	英語	オリエントーション
	3	音楽	新しい仲間と仲間	音楽	新しい仲間と仲間	3	音楽	新しい仲間と仲間
	3	音楽	SOUND TRACK	音楽	SOUND TRACK	3	音楽	SOUND TRACK
	3	音楽	曲調を生かして	音楽	曲調を生かして	3	音楽	曲調を生かして
	3	音楽	役柄を生かして	音楽	役柄を生かして	3	音楽	役柄を生かして
	3	音楽	アジアにおける日本の働き	音楽	アジアにおける日本の働き	3	音楽	アジアにおける日本の働き
	3	美術	本物とどうち	美術	本物とどうち	3	美術	本物とどうち
	3	美術	装さうしていつていことばあみだつたのか	美術	装さうしていつていことばあみだつたのか	3	美術	装さうしていつていことばあみだつたのか
	3	理科	水の調子	理科	水の調子	3	理科	水の調子
	3	理科	海外研修に出かけよう	理科	海外研修に出かけよう	3	理科	海外研修に出かけよう
	3	理科	暮らしの術	理科	暮らしの術	3	理科	暮らしの術
	3	体育	マット運動	体育	マット運動	3	体育	マット運動
	3	体育	短距離走	体育	短距離走	3	体育	短距離走
	3	体育	リレー	体育	リレー	3	体育	リレー
	3	体育	走り幅跳	体育	走り幅跳	3	体育	走り幅跳
	3	体育	YOSAKOIラン	体育	YOSAKOIラン	3	体育	YOSAKOIラン
	3	体育	バレーボール	体育	バレーボール	3	体育	バレーボール
	3	体育	サッカー	体育	サッカー	3	体育	サッカー
	3	理科	植物の世界	理科	植物の世界	3	理科	植物の世界
	3	理科	天候の変化	理科	天候の変化	3	理科	天候の変化
	3	理科	出雲と宇智	理科	出雲と宇智	3	理科	出雲と宇智
	3	体育	ダンス	体育	ダンス	3	体育	ダンス
	3	体育	跳り箱運動	体育	跳り箱運動	3	体育	跳り箱運動
	3	体育	Tボール	体育	Tボール	3	体育	Tボール
	3	体育	バレーボール	体育	バレーボール	3	体育	バレーボール
	3	体育	ソフトテニス	体育	ソフトテニス	3	体育	ソフトテニス
	3	体育	バスケットボール	体育	バスケットボール	3	体育	バスケットボール
	3	体育	柔道	体育	柔道	3	体育	柔道
	3	体育	走り幅跳び	体育	走り幅跳び	3	体育	走り幅跳び
	3	体育	柔道	体育	柔道	3	体育	柔道
	3	体育	ハードル走	体育	ハードル走	3	体育	ハードル走
	3	体育	ソフトテニス	体育	ソフトテニス	3	体育	ソフトテニス
	3	体育	バレーボール	体育	バレーボール	3	体育	バレーボール
	3	体育	バスケットボール	体育	バスケットボール	3	体育	バスケットボール
	3	国語	★文庫の構成や巻頭の挿話を读んで読む	国語	★文庫の構成や巻頭の挿話を读んで読む	3	国語	★文庫の構成や巻頭の挿話を读んで読む
	3	国語	歴史を读んだ読みか	国語	歴史を读んだ読みか	3	国語	歴史を读んだ読みか
	3	国語	資料の分析と整理	国語	資料の分析と整理	3	国語	資料の分析と整理
	3	英語	Lesson8	英語	Lesson8	3	英語	Lesson8
3	英語	Writing Tips	英語	Writing Tips	3	英語	Writing Tips	
3	英語	読本講座	英語	読本講座	3	英語	読本講座	

問題解決・探究における情報活用

分類	ステップ3		ステップ4		活用するICT	具体的項目	単元	活用するICT	期待される学習内容
	学年	教科等	学年	教科等					
1 問題解決・探究における情報活用 の態度	1	英語	★ペーパー	★デジタル	活用するICT	具体的項目	単元	活用するICT	期待される学習内容
			1	1	1	1	1	1	1
2 情報モラル・セキュリティなどに関する態度	2	英語	★ペーパー	★デジタル	活用するICT	具体的項目	単元	活用するICT	期待される学習内容
			2	2	2	2	2	2	2

問題解決・探究における情報活用

情報モラル・情報セキュリティ



平成30年度 情報教育 全体計画

北海道教育大学附属釧路中学校

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学校教育法施行規則
- ・学習指導要領 等

- 学校教育目標**
- ・たくましく生きる人間
 - ・創造することのできる人間
 - ・個性をつくりあげていく人間
 - ・共に高まろうとする人間
 - ・広く豊かな心を持つ人間

- 教師の願い
生徒の実態
社会の要請
地域性

めざす理想の人間 (授業)

- (1)文化(教科・教材)に対して即事的な態度が培われるような人間(授業)
- (2)情報や体験を介して深く限りなくかかわっていけるような人間(授業)
- (3)学ぶことを自分たちの生き方にかかわらせるような人間(授業)
- (4)価値の諸面を包括的にかかわっていけるような人間(授業)

学校経営方針

- (1)学ぶことと研究することを、たえず媒介しながら教育する学校
- (2)教育的概念は、すべて科学的仮説まで彫刻し、厳しくそれを実証していく学校
- (3)教師の力量が、すべて授業に凝縮されるような学校
- (4)教師は教育に、生徒は学習に、それぞれ「楽しくてしかたない」といった気風をもった学校
- (5)真理を追求することでは、誰もが平等かつ自由であるような学校

情報教育の目標と情報活用能力の3観点

情報活用能力(情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための個人的な基礎的な資質)を育成すること

【情報活用能力の実践力】
課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力

【情報の科学的な理解】
情報活用基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

【情報社会に参画する態度】
社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

【A:情報活用の実践力】

- (1)課題や目的に応じた適切な活用
- (2)必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造
- (3)受け手の状況などを踏まえた発信・伝達

【B:情報の科学的な理解】

- (1)情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解
- (2)情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

【C:情報社会に参画する態度】

- (1)社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- (2)情報モラルの必要性や情報に対する責任
- (3)望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

本校の情報教育で育てたい資質や能力及び態度

- 様々な情報手段から情報を適切に読み取り、活用することができる人間
- 情報モラルを尊重し、自ら得た情報を適切に活用できる人間
- 情報の意義や価値を考え、自らも主体的に情報を発信できる人間
- 他者と共に情報を創造的に活用していく人間

各学年の指導の重点

【第1学年】

- ・情報機器の基本的操作方法を身に付け、情報活用の実践力の基礎を身に付ける。
- ・情報の真偽を確かめながら情報を収集することができる。
- ・さまざまなメディアを活用して、情報を得る能力を養う。
- ・情報モラルに反する情報に対し、基本的な対応の仕方を理解する。

【第2学年】

- ・学習活動で収集した情報を自分の考えに沿って新たな資料にまとめることができる。
- ・具体的な課題を設定して、その解決のための手段としてコンピュータを活用できるように、実践的な学習を行う。
- ・自分の発信する情報について、安全性やマナーの視点から見直しより分かりやすい情報を発信しようとする。

【第3学年】

- ・著作権、肖像権、知的財産権等の意味を理解し、その権利を意識しながら情報を加工しようとする。
- ・インターネットや携帯電話を利用した犯罪があることを理解し、適切に対応しようとする。
- ・個人情報に配慮して情報を発信しようとする。
- ・自らの課題を設定するなどして、より実践的な学習を展開する。

【総合的な学習の時間】

- 「情報収集」の学習過程で、課題の解決に必要な情報をインターネット等を利用して収集できる力を身につける。
- 「整理・分析」の学習過程で、情報をコンピュータを使って比較したり、必要とする情報や信頼できる情報を選び取る。また、「まとめ・表現」の学習過程で、調査した結果をレポート、新聞、ポスター等にまとめる。
- インターネットを活用すると共に、不適切な情報に正しく対処できる方法を学び、情報モラルの必要性やマナーの大切さに気付いていく。
- 協同的な学習活動や、校外の人と交流する学習を通じて、情報を多面的に活用したり、協力して情報を活用したりすることの大切さを理解する。

【道徳】

- インターネット上のコミュニケーションは誤解を生む危険があることを理解する。
- 相手の顔が見えないメールでのコミュニケーションの特性を知る。
- 個人情報保護することの大切さを理解し、尊重する態度を育む。
- 知的財産権を尊重することの大切さを理解し尊重する態度を育む。

【特別活動】

- 学級活動や生徒会活動等で情報機器を効果的に活用する能力を養う。
- 学業と進路に関わる情報収集のために情報機器を活用する能力や態度の育成する。

各教科における指導の重点

国語科	話や文章に含まれている情報と情報との関係についてさまざまな視点から理解を深めるとともに、情報の整理の仕方や出典の示し方など、情報の信頼性の確かめ方を理解し、必要に応じて使うことができるようにする。	社会科	社会との関わりを意識して課題を追究したり解決する活動において、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現できるようにする。
数学科	数学を活用して、与えられた情報について論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察し、数学的な表現を用いてそれらを簡潔・明瞭・的確に表現できるようにする。	理科	自然の事象の中に問題を見だし、目的意識を持って観察・実験を主体的に行い、課題を解決する過程で、データを記録・整理して分析する活動などを通して、科学的な思考力・表現力を身につけることができるようにする。
音楽科	コンピュータや教育機器を活用し、音や音楽を聴覚だけではなく視覚的に捉えたり、感覚的に捉えることのほか、音楽科における資質能力を育むために、インターネットを活用し、世界の多様な音楽情報を整理・分析・活用できるようにする。	美術科	情報や気持ちをわかりやすく美し的に伝える効果と美しさとの調和を考え表現の構想を総合的に練ることができる力を育成する。また、コンピュータ、カメラなどの情報機器を、表現や鑑賞の活動で使う用具の一つとして扱えるようにする。
保健体育科	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動に関する特性や魅力、一般原則や科学的な知識などの情報を理解し、課題解決のために活用するなどして、運動を豊かに実践できるようにする。	英語科	外国語で聞いたり読んだりして得た知識や情報、考えなどを的確に理解することができるようにする。また、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、それらを表現できるようにする。
技術・家庭科	生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見出して課題を設定し解決する力、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に情報の技術を工夫し創造できるようにする。		

情報活用能力調査（生徒用）

____年 ____組 ____番 名前_____

○ 学校での学習についての質問です。家でのことではありませんので注意しましょう。

☆次のことについて、もっとも近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。

1. インターネットに必要な情報を検索して調べるためにコンピュータやiPadを使う。
4. ほぼ毎日利用している 3. 時々利用している 2. ほとんど利用していない 1. 全く利用したことがない
2. 発表するためのスライドや資料を作るためにコンピュータやiPadを使う。
4. ほぼ毎日利用している 3. 時々利用している 2. ほとんど利用していない 1. 全く利用したことがない
3. インターネットに必要な情報を検索して調べることは得意である。
4. 当てはまる 3. どちらかといえば当てはまる 2. どちらかといえば当てはまらない 1. 当てはまらない
4. コンピュータやiPadを使って、発表するためのスライドや資料を作ることは得意である。
4. 当てはまる 3. どちらかといえば当てはまる 2. どちらかといえば当てはまらない 1. 当てはまらない
5. コンピュータやiPadを使った授業では、情報機器を使用しない授業より興味や関心を持って取り組むことができる。
4. 当てはまる 3. どちらかといえば当てはまる 2. どちらかといえば当てはまらない 1. 当てはまらない
6. わからないことがあったら、辞書やインターネットなどの調べる方法を考えて、いろいろな方法で調べるようにしている。
4. 当てはまる 3. どちらかといえば当てはまる 2. どちらかといえば当てはまらない 1. 当てはまらない
7. 調べものをするとき、できるだけ多くの資料を集めてから、自分の探していることを見つけるようにしている。
4. 当てはまる 3. どちらかといえば当てはまる 2. どちらかといえば当てはまらない 1. 当てはまらない
8. 文章を読んだだけではわからないとき、図や表に書き直してみるようにしている。
4. 当てはまる 3. どちらかといえば当てはまる 2. どちらかといえば当てはまらない 1. 当てはまらない
9. いろいろな資料を比べて共通点やちがいをを見つけ出すようにしている。
4. 当てはまる 3. どちらかといえば当てはまる 2. どちらかといえば当てはまらない 1. 当てはまらない
10. いろいろなことを人とはちがった面から考えたり、自分なりの考えを持つようにしたりしている。
4. 当てはまる 3. どちらかといえば当てはまる 2. どちらかといえば当てはまらない 1. 当てはまらない

（裏面に続く）

11. 課題に取り組むとき、筋道を立てて考えるよりは、思いつきで結論を出すことが多い。
4. 当てはまる 3. どちらかといえば当てはまる 2. どちらかといえば当てはまらない 1. 当てはまらない
12. 意見があわないときは、両方の意見を聞いてから、どちらの意見が正しいのかを自分なりに決めるようにしている。
4. 当てはまる 3. どちらかといえば当てはまる 2. どちらかといえば当てはまらない 1. 当てはまらない
13. 学習活動の後は、よかったことや悪かったことについて、振り返るようにしている。
4. 当てはまる 3. どちらかといえば当てはまる 2. どちらかといえば当てはまらない 1. 当てはまらない
14. 自分の聞いた話や集めた資料が本当に正しいのかについて、よく考えるようにしている。
4. 当てはまる 3. どちらかといえば当てはまる 2. どちらかといえば当てはまらない 1. 当てはまらない
15. 調べたことをもとに新しいものをつくりだしたり、自分の考えを出したりするようにしている。
4. 当てはまる 3. どちらかといえば当てはまる 2. どちらかといえば当てはまらない 1. 当てはまらない
16. 問題を見つけたときは、解決方法を考えるようにしている。
4. 当てはまる 3. どちらかといえば当てはまる 2. どちらかといえば当てはまらない 1. 当てはまらない

情報活用能力調査（教師用）

担当教科 _____

名前 _____

○ 本調査は、生徒の情報活用能力育成に向けた学習指導の改善に向けて、実施いたします。
☆下記のことについて、もっとも近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。

あなたは次のことについて、今年度の4月から7月にかけて行った授業について、生徒にどの程度指導を行いましたか。最も近いものを1つ選んで○をつけてください。

1. インターネットで必要な情報を検索して調べるためにコンピュータやiPadを使うこと。
4. 週1回以上 3. 月1回以上 2. ほとんど利用していない 1. 全く利用したことがない
2. 発表するためのスライドや資料を作るためにコンピュータやiPadを使うこと。
4. 週1回以上 3. 月1回以上 2. ほとんど利用していない 1. 全く利用したことがない
3. 目的に応じて、辞書やインターネットなどの情報収集方法を検討し、実際に情報収集させること。
4. 週1回以上 3. 月1回以上 2. ほとんど利用していない 1. 全く利用したことがない
4. インターネットで収集した情報の客観性、信頼性、妥当性を読み取らせること。
4. 週1回以上 3. 月1回以上 2. ほとんど利用していない 1. 全く利用したことがない
5. いろいろな情報を比較・関連付けさせたり、多角的に考察させたりするなどして判断させること。
4. 週1回以上 3. 月1回以上 2. ほとんど利用していない 1. 全く利用したことがない
6. コンピュータやiPadなどを活用して、生徒同士が教え合い学び合う学習（協働学習）を行わせること。
4. 週1回以上 3. 月1回以上 2. ほとんど利用していない 1. 全く利用したことがない
7. 集めた情報と自分の知識・経験をもとに、新たな情報や価値ある情報を創造し提案させること。
4. 週1回以上 3. 月1回以上 2. ほとんど利用していない 1. 全く利用したことがない
8. コンピュータやiPadなどを活用して、生徒に課題発見・解決型の学習を行わせること。
4. 週1回以上 3. 月1回以上 2. ほとんど利用していない 1. 全く利用したことがない
9. 学習活動の記録や成果物を活用して、学習や活動について振り返りながら、新たな課題や改善点に気づかせること。
4. 週1回以上 3. 月1回以上 2. ほとんど利用していない 1. 全く利用したことがない

（裏面に続く）

あなたは次のことについて、生徒にどの程度指導することができますか。最も近いものを1つ選んで○をつけてください。

10. インターネットで必要な情報を検索して調べるためにコンピュータやiPadを使うこと。
4. 指導できる 3. どちらかという指導できる 2. どちらかという指導できない 1. 指導できない
11. 発表するためのスライドや資料を作るためにコンピュータやiPadを使うこと。
4. 指導できる 3. どちらかという指導できる 2. どちらかという指導できない 1. 指導できない
12. 目的に応じて、辞書やインターネットなどの情報収集方法を検討し、実際に情報収集させること。
4. 指導できる 3. どちらかという指導できる 2. どちらかという指導できない 1. 指導できない
13. インターネットで収集した情報の客観性、信頼性、妥当性を読み取らせること。
4. 指導できる 3. どちらかという指導できる 2. どちらかという指導できない 1. 指導できない
14. いろいろな情報を比較・関連付けさせたり、多角的に考察させたりするなどして判断させること。
4. 指導できる 3. どちらかという指導できる 2. どちらかという指導できない 1. 指導できない
15. コンピュータやiPadなどを活用して、生徒同士が教え合い学び合う学習（協働学習）を行わせること。
4. 指導できる 3. どちらかという指導できる 2. どちらかという指導できない 1. 指導できない
16. 集めた情報と自分の知識・経験をもとに、新たな情報や価値ある情報を創造し提案させること。
4. 指導できる 3. どちらかという指導できる 2. どちらかという指導できない 1. 指導できない
17. コンピュータやiPadなどを活用して、生徒に課題発見・解決型の学習を行わせること。
4. 指導できる 3. どちらかという指導できる 2. どちらかという指導できない 1. 指導できない
18. 学習活動の記録や成果物を活用して、学習や活動について振り返りながら、新たな課題や改善点に気づかせること。
4. 指導できる 3. どちらかという指導できる 2. どちらかという指導できない 1. 指導できない

北海道教育大学附属釧路中学校 平成 30 年度 研究成果報告書

発行日 平成 31 年 3 月 8 日

次世代の教育情報化推進事業

情報活用能力の育成等に関する実践的調査研究 情報教育の体系的な推進

自ら学ぶ意味を創造できる児童・生徒の育成

～情報活用能力育成の視点から～

発行者 北海道教育大学

推進校 北海道教育大学附属釧路中学校

北海道釧路市桜ヶ岡 7 丁目 12 番 2 号

代表 早 勢 裕 明

TEL (0154)91-6857

FAX (0154)91-6812

URL http://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_chu/

e-mail kus-fuchukyo@k.hokkyodai.ac.jp

印刷所 釧路総合印刷株式会社

TEL (0154)23-9201

